



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5

始



特 254
286



濱
松
市
案
内

濱松市案内所



優美に
Andante 市 歌 本居長世作曲

大宮人の旅衣
入みだれけむ萩原の
昔つばらにたづねつる
翁をしのべ書よまば
國の亂をしづむべき
いさをのものと此里に
城の礎かためけむ
人なわすれそ銃とらば
引馬のうまさまかへて
よろづの業の進むなる
いざもろとも謀りてむ
わが濱松の市のさかえ

市 歌

森 林 太 郎 作 歌

活潑に 行進歌 本居長世作曲

コマ ヒクハ メデタキタノシ
 ヒクマト ハ コキナラズヤ ソノチハナ
 ドチカヘケム ナチカヘケム

行進歌

森林太郎作歌

- 一、駒引くは
 曳馬とは
 その名をば
 めでたきためし
 よき名ならずや
 などでかへけむ
- 二、引くといふ
 ますらをの
 おもへりし
 ことばをさへに
 いむべきものと
 昔しのばゆ
- 三、このころ
 もろともに
 濱松の
 いやゝかためて
 いざはかりてむ
 いちのさかえを

濱松市略圖



進 行 活潑に



二、引くとりふ
 ますらをの
 おもへりし
 昔しのばゆ
 いむべきものと
 三、このころ
 もろともに
 いよゝかためて
 いざはかりてむ
 いちのさかえを

遠州白羽

濱松市案内所

料無てべすは扱取

我が「濱松市」は都市計畫に依つて面目を一新し都市施設は概ね整ひ豊かな名勝舊蹟とともに觀光都市を形成して居ります。近時隣村合併によつて人口十八萬に垂し、産物は有名な遠州織物を始め樂器、製帽、冰糖等の特産品を中外に移出し産業都市として静岡縣下第一位にあります。

商用でお出でになりました際に、最も安易に、最も敏速に紹介並案内御用の達せますやうに又お序に名勝舊蹟の御見物にもその他何事によらず御世話したいといふ奉仕の意味で設けられたのが「濱松市案内所」であります。場所は濱松驛表降車口に在りますから御利用下さい。仕事の概略は次のやうなものであります。

- ◆市内の會社、商店を御紹介案内致します。
- ◆市内と近郊の名勝、史蹟、遊覽地などを案内致します。
- ◆地理の不案内、乗物の不慣れについてのお尋ねにお答へ致します。
- ◆旅館、買物、娛樂などの御相談に應じます。
- ◆市内視察についての御便宜をお圖り致します。
- ◆本市の仕事についてのお尋ねにお答へ致します。
- ◆學校、産業施設、社會施設その他あらゆる文化施設の利用並に視察に關するお問合せにお答へ致します。
- ◆案内書、地圖、繪葉書などの印刷物をお頒ち致します。

電話によるお問合せは 濱松四一〇三番



— 昔の松濱 —

濱松市の沿革

ひくま野にほふ萩原入り亂れ
衣にほはせ旅のしるしに

曳馬の里は萬葉集などにも萩の名所と謳はれ、奈良朝時代より廣くその名が知られて居た。延元の頃に今川氏が此地を領有したが永正年間に三善爲連が居城を玄黙に築いて曳馬城と呼び、永祿十二年に徳川家康が居城と定めてから濱松城と改稱した。濱松の稱は之から起つたのである。天正十八年に家康が關東に移封せられて豊臣氏の臣堀尾吉晴の居城となり、慶長五年に政權が徳川氏に歸するや松平忠頼を移封した。爾來日に繁榮に赴いて寛文の頃には戸數は一千四百餘戸を算したといふ。弘化三年井上河内守が入

目次

一、濱松市の沿革	一
一、濱松見物の手引	一
乗りもの案内	七
買ひもの案内	八
食べもの案内	八
娯樂案内	八
宿泊案内	九
見物日程と順路	二
一、名所・舊蹟案内	二
社	二
佛	二
名所・舊蹟とところどころ	三
商品陳列所・圖書館	三
遊園地・市營運動場	三
盛り場案内	三
一、附	三
年中行事	三
郊外鐵道・電車・バス沿線名所	三
濱松を中心とした好適遊覽コース	三
濱松附近略圖	三
市内の官公署・學校	三

濱松見物の手引



乗りもの案内
 買ひもの案内
 食べもの案内
 娯楽案内
 宿泊案内
 見物日程と順路



— 松濱の今 —

城して大いに殖産を勸奨したので商工業が盛に起り人口亦著しく増加した。

明治維新に及んで濱松城の廢城と共に行政が一變し、明治二年静岡藩郡政役所を設けられて濱松宿市街取締大庄屋の支配に屬し、明治四年には濱松縣を置かれ同九年濱松縣が廢せられて静岡縣に合し同二十二年町村制が實施せられて濱松町となり爾來數次接續地を編入し、日に月に相當繁榮したので同四十四年七月市制を施行した。大正十二年五月勅令を以て都市計畫施行地に指定せられ年次工を進めて今日に及び、昭和六年には二百三十八萬餘圓を以て上水道が完成し大都市としての面目を備へるに至つた。現在戸數三萬二千餘戸、人口十七萬八千餘人、面積四八・二五平方軒となり、産業都市として躍進又躍進を續けてゐる。

市営バス乗車賃金表

(全線均一……乗替無料)

普通乗車券																												
大人	(満十二歳以上)……………金10銭																											
	往復賃金 <small>(かへりノ切符ハイツ)</small> ……………金15銭 <small>(デモ通乗数シマス)</small>																											
	早朝割引往復……………金10銭 <small>(四月ヨリ十月迄ノ午前6時40分迄ノ乗車分)</small> <small>(十一月ヨリ三月迄ノ午前7時30分迄ノ乗車分)</small>																											
	濱松鐵道連絡割引……………金6銭																											
小人	(満四歳以上十二歳未満)……………金5銭																											
	濱松鐵道連絡割引……………金3銭																											
學生	……………金5銭																											
	濱松鐵道連絡割引……………金4銭																											
軍人	……………金5銭																											
回数券																												
大人券	14回券……………金1圓																											
	30回券……………金2圓																											
	85回券……………金5圓																											
學生券	50回券……………金2圓																											
小人券	33回券……………金1圓																											
定期券																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小人</th> <th>學生</th> <th>大人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一ヶ月</td> <td>一ヶ月</td> <td>一ヶ月</td> </tr> <tr> <td>三ヶ月</td> <td>三ヶ月</td> <td>三ヶ月</td> </tr> <tr> <td>六ヶ月</td> <td>六ヶ月</td> <td>六ヶ月</td> </tr> <tr> <td>一年</td> <td>一年</td> <td>一年</td> </tr> <tr> <td>一、七、七〇</td> <td>一、六、八〇</td> <td>二、一、九〇</td> </tr> <tr> <td>七、四〇</td> <td>九、六〇</td> <td>一、二、八〇</td> </tr> <tr> <td>四、一〇</td> <td>五、四〇</td> <td>七、三五</td> </tr> <tr> <td>一、五〇</td> <td>二、〇〇</td> <td>二、五五</td> </tr> </tbody> </table>	小人	學生	大人	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	三ヶ月	三ヶ月	三ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	一年	一年	一年	一、七、七〇	一、六、八〇	二、一、九〇	七、四〇	九、六〇	一、二、八〇	四、一〇	五、四〇	七、三五	一、五〇	二、〇〇	二、五五
小人	學生	大人																										
一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月																										
三ヶ月	三ヶ月	三ヶ月																										
六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月																										
一年	一年	一年																										
一、七、七〇	一、六、八〇	二、一、九〇																										
七、四〇	九、六〇	一、二、八〇																										
四、一〇	五、四〇	七、三五																										
一、五〇	二、〇〇	二、五五																										

乗りもの案内

市営バス

濱松における最も重要で、最も便利、低廉な交通機関である。

通機關であつて、一日の乗降客は六千の多數に上つてゐる。舊市内及新市域の一部に亘つて四通八達し早朝から夜半に至るまで頻繁に運轉してゐる。特に早朝は割引し尙乗換は無料となつてゐる。

現住戸数及人口

項目	人口			戸数	年次	
	計	女	男			
昭和十四年末	一七八、九二七	九二、四七二	八六、四五五	三二、三四一		
一戸當人口	五・五三					
職業別戸数						
種別	交通業	商業	工業	礦業	水産	農業
戸数	一、〇三七	一〇、〇〇二	九、七六七	三	八	二、〇二三
種別	合計	無職	家事使用人	其他有業者	公務自由業	
戸数	三二、三四一	七八九	一二五	四、八二二	三、七六五	

濱松市戸口

私營バス

濱松驛を起點として放射線狀に延び、郊外と都心を結ぶ役目をしてゐる。經營會社別路線は左の通りである。

濱松自動車株式會社

追分町線・村櫛線・氣賀線(和地—氣賀)・宇布見三方原線・館山寺野崎線・飯田線・笠井線。線・辨天島線・倉松線・鶴見線・笠井線。

掛塚自動車株式會社

掛塚、福田、豊濱、横須賀線。

遠州乗合自動車株式會社

中ノ町、中泉、見付、袋井線。

氣賀自動車株式會社

氣賀線・金指、井伊谷、澁川線・鳳來寺線。

私鐵

私鐵は左の三社で郊外を結ぶ重要交通機關の役割をしてゐる。

遠州電氣鐵道株式會社

濱松(旭町)——二俣(西鹿島)間

濱松電氣鐵道株式會社

西ヶ崎——笠井間

濱松鐵道株式會社

濱松(東田町)——奥山間

タクシー

現在濱松は均一料金で左の通り定められてゐる。

貸切自動車 (濱松驛基點五人乗一臺)

舊市内 片道七〇錢 往復一圓

新市内は距離によつて定められてゐる

時間貸 一時間金三圓 五時間十三圓 十時間二十五圓

待賃 三十分毎に五十錢

立寄料 一回に付二十錢

小型自動車 (濱松驛基點三人乗一臺)

舊市内 片道 五〇錢 往復七〇錢

新市内は距離によつて定められてゐる
時間貸 一時間金二圓 五時間九圓 十時間十七圓
待賃 三十分毎に三十五錢
立寄料 一回に付十五錢

買ひもの案内

みやげもの

食料品

濱納豆、海苔のてり焼、紫蘇巻、忍冬酒

菓子類

甘納豆、小菊饅頭、國乃光、ダイヤ氷糖、濱せんべい、波がしら

織物

◆ハーモニカ ◆張子玩具 ◆曳馬萩筆

買ひもの

百貨店

松菱

鍛冶町

平日午前九時から午後六時迄營業
毎土・日曜・祭日午後九時迄夜間營業
毎月第二・第四月曜日休み

棒屋 同

平日午前九時から午後七時迄營業
同同

濱松市商品陳列所 傳馬町(開館日時別項参照)

〔濱松の有名な一流商店が加盟してゐる出品協會の共同商品陳列販賣を行つて居り、濱松土産は勿論、濱松の代表的商品が網羅されてゐる。〕

食べもの案内

食べもの

- △鰻
- △貝料理
- △釜めし
- △天麩羅
- △かに料理
- △柳川鍋
- △魚料理
- △鯛めし
- △牛肉

濱松でまづ味はなければならぬのはうなぎで、養鰻場が手近かにあるので新鮮なものが食べられる、又海が近い関係で鮮魚、貝類の料理は特別美味で一度は鑑賞するに値ひする、前記以外の料理もお好み次第で食通の味覚を楽しませる。東西都人士の娯集する関係で、西洋料理、支那料理、すし、うどん、そば、何でも食通の好評を博してゐる。

娯楽案内

劇場・映畫館

劇場	座	電話
新歌舞伎座	元魚町	八三六
昭和座	砂山町	—
松竹劇場	田馬町	三九四
吾妻座	傳馬町	五三三
濱松新興館	鍛冶町	二六五
松竹館	利治町	二四六
濱松館	千歳町	七三
三松館	鍛冶町	二四三
二葉館	鴨江町	三三二
元氣館	元濱町	二九三六
電氣館	砂山町	七五三
寶氣館	新山町	一六三
相生三松館	相生町	—

宿泊案内

旅館を選ぶについて

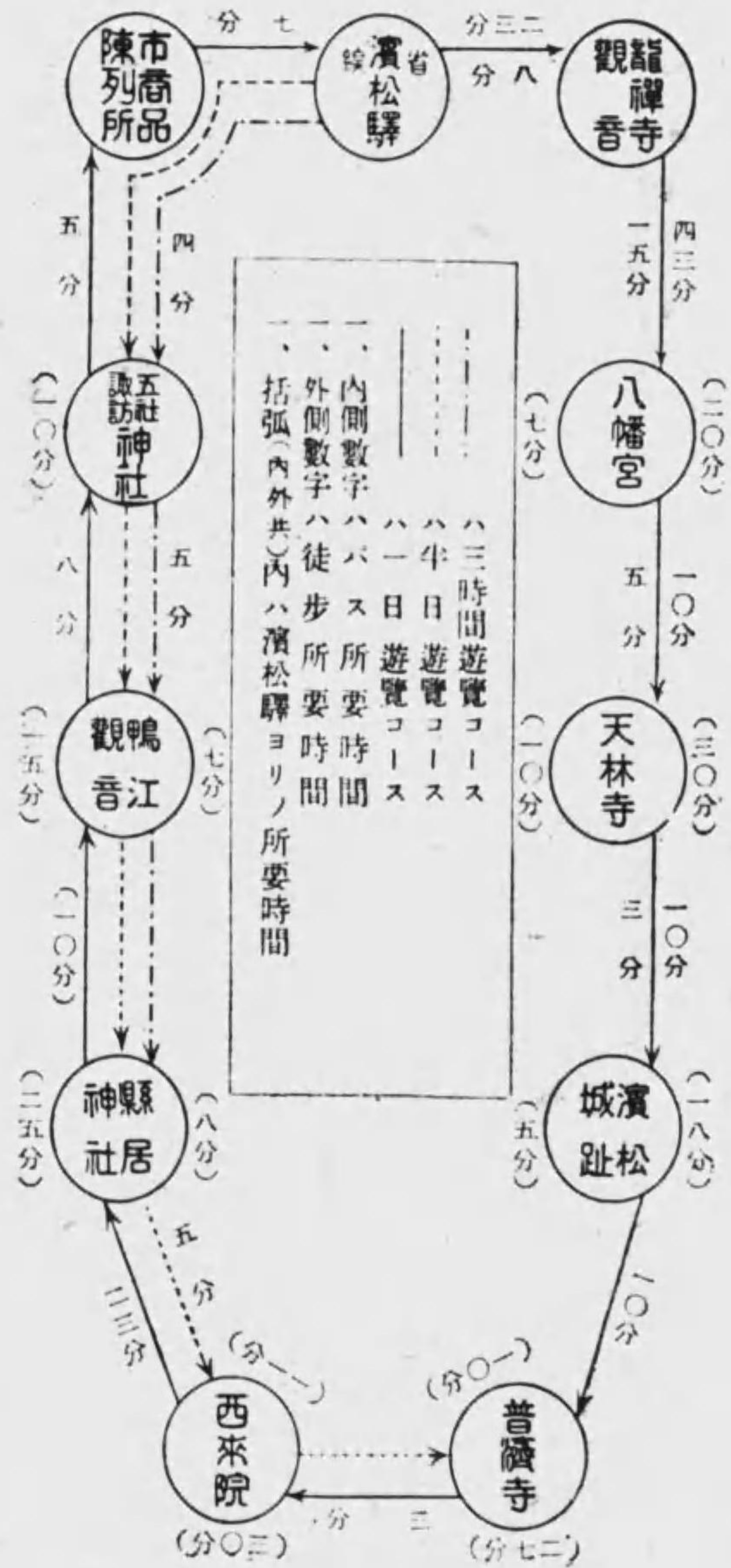
知らぬ土地で旅客を悩ますものは何と云つても旅館の選定であらう。旅館の善悪は旅の印象を左

右する重大要素と云つても過言ではないからである。この點については旅館業者にも軽からぬ責任があり、われ／＼関係者も常にその施設、サービスの改善について種々の注意助力をしてゐるのであるが、一方旅行者も、その旅館の選擇に當つては充分な注意が必要かと思ふ。

旅館

屋號	位置	電話	收容人員
イ	傳馬町	三三九	六人
小松屋本店	傳馬町	三三九	六人
平野屋	同	一三八*	三六〇人
油屋	旭町	六三	六〇五
松本旅館	同	二五八*	五〇人
大村屋	同	八八*	七三
中村館	板屋町	八八*	七三
花屋	旭町	五*	一五六
高木屋	同	五〇	二六三
万松	田町	二六八*	四九
仲屋	鍛冶町	二二〇*	一六〇
		三七三	八〇人

市内遊覧コース



見物日程と順路

美濃喜	八	常盤ホテル	美濃屋	川しま	小松屋支店	國領屋	江戸善	喜和新	濱松ホテル
旭町 五五		常盤町 三六〇	利町 四二*	肴町 一〇*	同 三八*	同 七*	同 八〇*	同 二三八*	鍛冶町 三二八*
八〇九		一九五	三五五	三八	一六五〇	四〇七	一七	二四七	一八二
三人		五人	五人	八人	六人	三人	三人	九人	五人
宿泊料	三井屋	濱ホテル	仲屋	たわらや	酒萬	鳥屋	中村館支店	鎌屋	龜屋旅館
ハロイ	同	同	同	同	同	同	鍛冶町 三〇	田町 二八	旭町 二七
二圓四角以上	一八四	二六二	一三五	一三五	一三一	二〇	四〇六	二八	二七
四圓以上	一七四	一〇五〇	二〇八	二〇五	五九〇	八七	四〇六	一七	二六
五圓以上	四五人	三人	七人	三人	三人	三人	五人	三人	一人
*印は各客室卓上電話の設備あり	大黒屋	西遠館	中野屋	かつみ	豊田屋	いまや	新駒屋	林屋	喜久屋旅館
	和地山町 二九	龜山町 三二	鴨江町 一五八	利町 三四	旅籠町 四五	同 一〇九	同 五三	肴町 七三	鍛冶町 一七
	七五	二〇八	八九	二〇六	三三	六七	五五	二〇	二二
	二人	八人	二人	二人	三人	三人	四人	八人	三人

市内遊覽 濱松驛を起點とす

三時間コース (市營バス貸金片道十錢、往復十五錢)

見物箇所

行き方 (下車地)

備

考

- 1 縣社五社神社
- 村社諏訪神社

- 2 縣社縣居神社

- 3 鴨江觀音

市營バス鴨江廻り乗車。公會堂下、下車。所要四分。北坂道へ徒歩約〇・一軒

公會堂下にて市營バス鴨江廻り乗車。大門前下車。所要四分。西南へ徒歩約〇・四軒

大門前より北へ徒歩約〇・二軒

兩神社共國寶。境内に遊園地がある。附近に市役所、市公會堂、市立圖書館、濱松警察署等がある。

神社の裏から南方を俯瞰すれば東洋紡績株式會社濱松工場、遠く遠州灘を望む。附近に濱松測候所がある。

境内に遊園地がある。附近に濱松區裁判所、刑務所濱松支所、市立濱松病院、濱松官立學校、遊廓等がある。參詣後觀音前にてバス濱松驛行に乗る。所要五分。

半日コース

見物箇所

行き方 (下車地)

備

考

- 1 縣社五社神社
- 村社諏訪神社

- 2 縣社縣居神社

- 3 鴨江觀音

- 4 普濟寺

- 5 西來院

同前

同前

同前

同前

觀音前にて市營バス名殘廻り乗車。普濟寺前下車。所要六分

普濟寺前より西へ徒歩約〇・二軒

同前

同前

順徳帝の皇子寒巖禪師の御廟がある。境内に遊園地がある。

築山御前の御墓がある。藤の名所。參詣後西來院前で市營バス濱松驛行に乗る。所要十二分。

一日コース

見物箇所

行き方 (下車地)

備

考

- 1 龍禪寺觀音

- 2 郷社八幡宮

- 3 天林寺

- 4 濱松城趾

- 5 普濟寺

市營バス龍禪寺廻り乗車。龍禪寺仁王門下車。所要八分

龍禪寺仁王門にて市營バス天林寺廻り乗車。專賣局西角下車。所要十五分。北西へ徒歩約〇・三軒

專賣局西角にて市營バス名殘廻り乗車。天林寺下、下車。所要五分。北へ徒歩約〇・一軒

天林寺下にて市營バス元城行乗車。天守臺道下車。所要三分。西へ徒歩約〇・三軒

城趾より西へ徒歩約一軒

近衛前關白晴嗣公の遺跡龍山公殘亭がある。

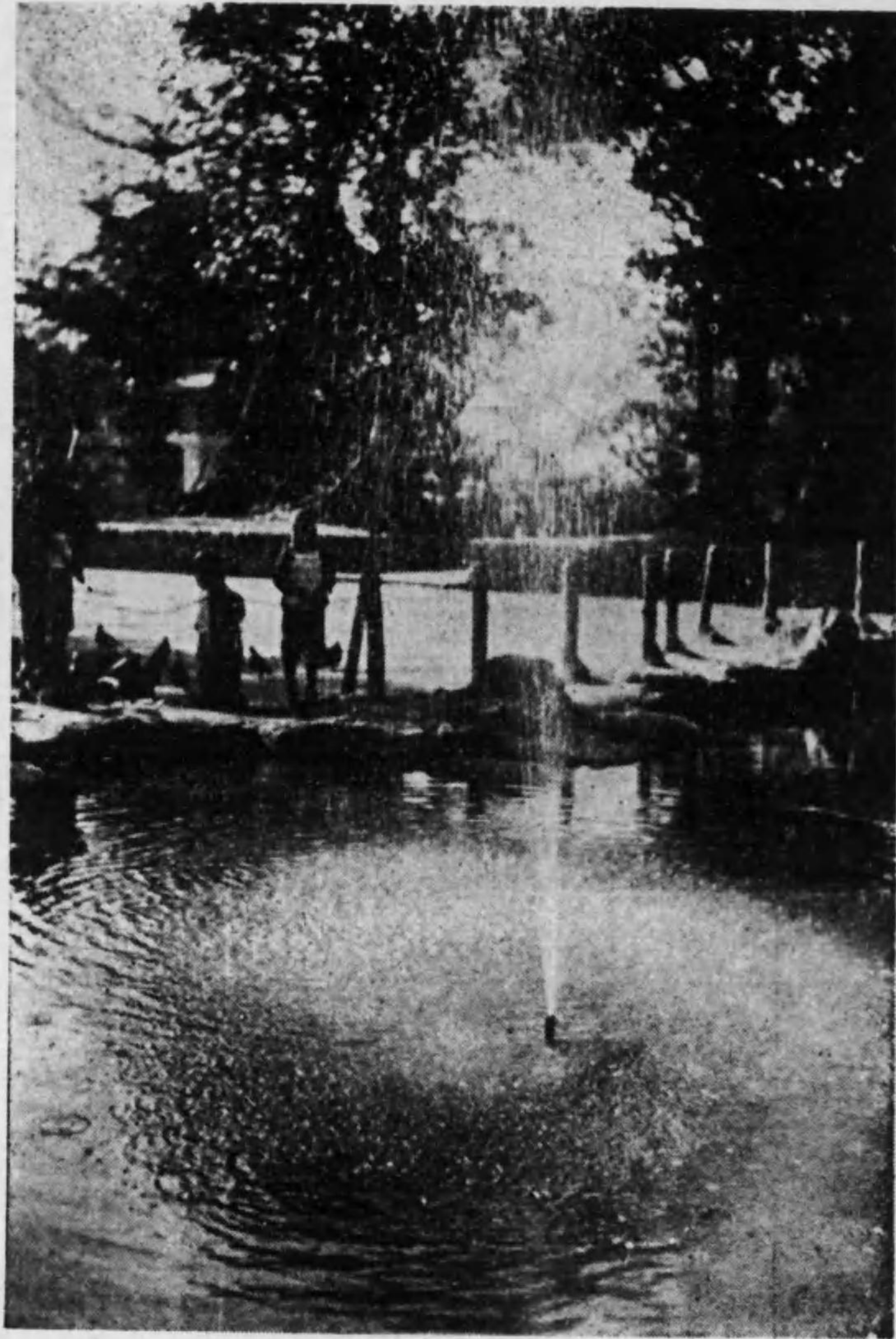
雲立の樟がある。附近に瀟々の松がある。

境内に遊園地がある。

附近に鑑應松、濱松稅務署がある。

同前

名所舊蹟案内



神社・佛閣
 名所舊蹟ところどころ
 商品陳列所・圖書館
 遊園地
 盛り場案内

10	9	8	7	6
市	村	縣	縣	西
商	社	社	社	
品	諫	五	縣	來
陳	訪	社	居	
列	神	神	神	
所	社	社	社	院

普濟寺前より西へ徒歩約〇・二軒
 西來院にて市營バス鴨江要行
 五分。南へ徒歩約〇・三軒
 縣居社ヨリ北東へ徒歩約
 〇・六軒
 觀音前にてバス濱松驛行乘車
 公會堂下。下車。所要五分
 北坂道へ徒歩約〇・一軒
 諫訪神社前ヨリ徒歩約〇・四軒

見物後徒歩約〇・七軒にて濱松驛に至る。隣りに濱松商
 工會議所がある。



縣 社 五 社 神 社

縣社五社神社 市營「バス」榮町、市公會堂下、下車
 利町にある。濱松驛から約〇・八軒。天太玉命・武雷命・齋主神・天兒屋根命・姫大神の五柱の神を祀る。創建の年代は詳でない。天正七年徳川秀忠の誕生に産神とし、天正八年城内より現地に遷座した。壯麗な社殿は寛永十八年徳川家が建立した、維新前は朱印社領三百石を附せられ、本殿・権殿・鼓樓・唐門等備はり、江戸時代美術の粹を集め壯麗を極めたものである。その後荒廢に歸し本殿及び唐門を存するのみとなつた。本社祠殿は大正三年古社寺保存法に依つて特別保護建造物に指定せられた。境内に賀茂眞淵翁の撰並に書にかゝる「光海靈神」の碑あり、又明治維新の際東征大總督宮に隨行した遠州報國隊の碑がある。昭和十三年社殿の大修繕を行ひ、結構壯觀舊に復した。

村社諏訪神社 市營「バス」榮町、市公會堂下、下車
 利町にある。五社神社と社域を接し社殿も殆んど同一の構造

社

濱松市産業生産總額		市内所在會社・銀行數 (昭和十四年)	
種別	昭和十四年	會社	銀行
農産物	二、六二五、七六八	株式會社	種別
畜産物	七六八、三七五	合資會社	本 店
水産物	八四、八五八	合名會社	支 店
林産物	四、〇五一	計	
工業物	一三六、一五六、二八四	株式會社	一四八
計	一三九、六三九、三三六	合資會社	一八〇
戸當	四、三一八	合名會社	七五
人當	七八〇	計	四〇三
		別 種 業	種 別
		運輸	商業
		其他	工業
			本 店
			支 店
			八
			四二
			二〇
			五
			一
			三
			七



社 神 居 縣 社 縣

である。五社神社と同じく徳川家の造營で祭神は建御名方命・八坂刀賣命・事代主命・大己貴命・舍人親王の五柱の神を祀る。社殿壯麗で維新前は三百石の朱印を附せられて居つたが漸次腐朽し今は本殿、唐門、樓門等を存するのみとなつた。昭和十三年七月國寶建造物に指定せられた。

縣社縣居神社 市營「バス」鴨江町、縣居神社道下車

東伊場町にある。濱松驛から約一・六軒。國學三大人の一人賀茂眞淵翁を祀る。天保十一年遠州の國學者高林方朗・石川依平等有志者の賛成を得、濱松城主水野越前守忠邦の許可を受け東伊場町加茂神社境内に一小祠を造營し、縣居翁靈社と稱した。忠邦が頗る此の學を賛し自ら碑石に縣居翁靈社と題して祠前に建てしめた。大正九年崇敬者相謀り更に同町内の現地を下して社殿を新築して遷座し縣居神社と改稱した。越前守が建つた所の碑も社前に移してある。昭和三年十一月御大典の際縣社に列せられた。近時翁の親族である岡部讓氏所藏の圖書等一萬卷を寄附し、境内に縣居文庫を設立してある。



縣社蒲神明宮

市營「バス」佐藤町、西遠女學校前下車

市内神立にある。濱松驛から約二・五軒。天照皇大神を祀る。創建の年代は詳でない。天正六年戊寅正月

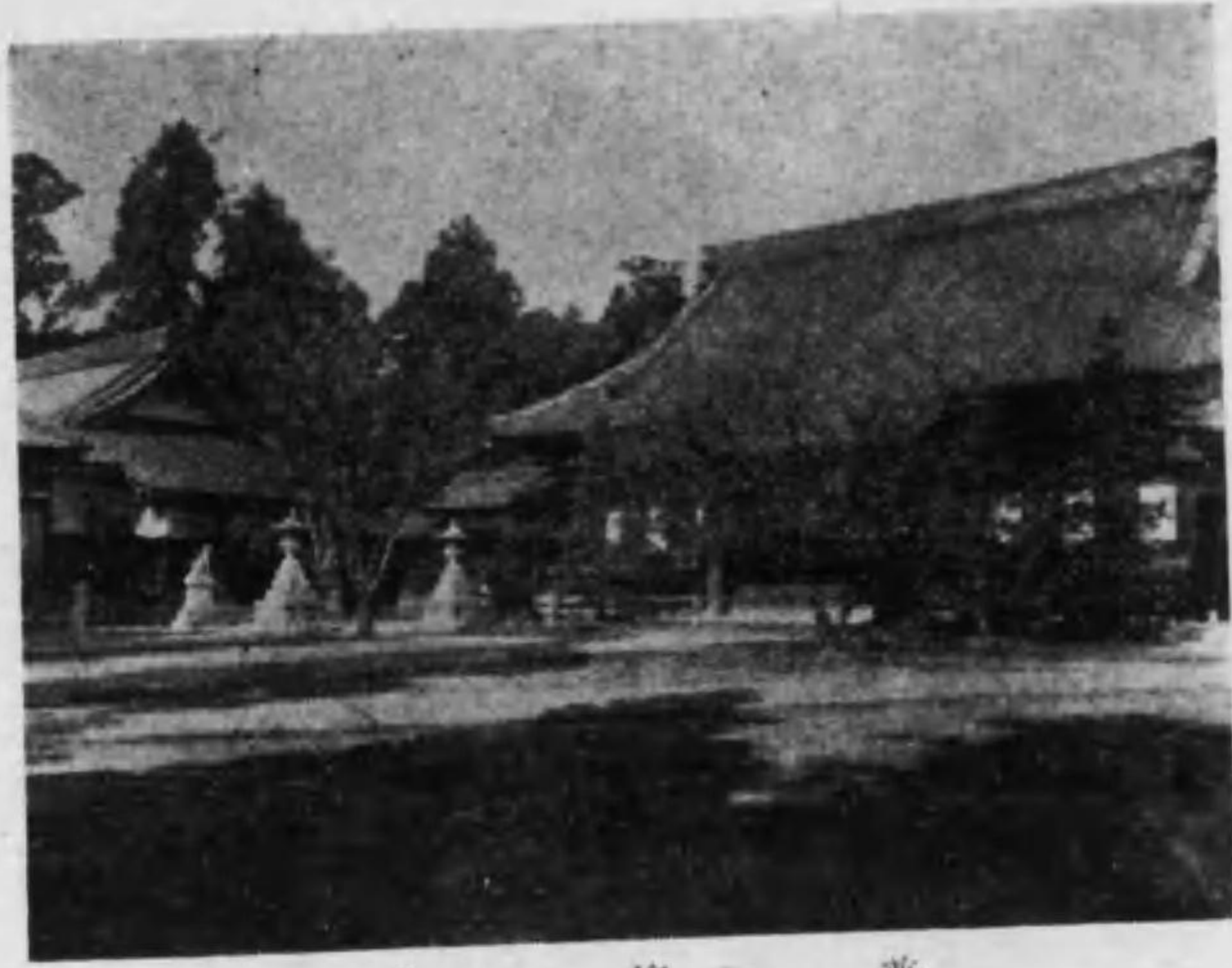
宮 明 神 蒲 社 縣

二日及び寛政五年癸丑十二月焼失し古文書類多数を失つたけれども神位は三代實錄に「貞觀十六年五月十一日正六位の上蒲大神に従五位の下を授く」と顯然として居る。往古は蒲大神と稱し、中古は神明宮と稱し俚語には御神とも稱した。維新以後は蒲神明宮と稱し當社の勸請は蒲家高遠祖大織冠正二位内大臣藤原朝臣謙足十世孫越後守仲舉（後に靜並と改む）遠江の國に至り國家の福祉子孫の繁榮を祈る爲伊勢大神宮を勸請した。天正年中關白豊臣秀吉の時に至つて神領全部を沒收せられ改めて朱印高二百六十石を領有した。維新以後朱印高を取上げられた。

境内は廣潤で老樹が鬱蒼として頗る幽趣がある。

郷社八幡宮

市營「バス」八幡町、八幡宮參道下車



普濟寺

普濟寺 市營「バス」廣澤町、普濟寺前下車
 廣澤町にある。濱松驛から約一・七杆。曹洞宗に屬す。徳川幕府から寺領七十石の朱印を附せられ末寺五百有餘、殿閣具備輪奐壯麗を極めて居つたが明治三十年火災に罹り山門衆寮を除くの外悉く烏有に歸した。その後本堂庫裏その他十數棟を建築した。順徳天皇第三皇子寒巖法皇禪師五世の法孫華藏和尚法祖の靈骨を奉じて應永年中敷地郡寺島村（今の市内寺島町）に來つて吉良氏の援助により一寺を建立したが後水難を避ける爲現地に移轉したものであると言ふ。境内に寒巖法皇禪師の御墓がある。近時禪師の守護佛である北山稻荷の祠宇を建立し日々全國各地からの參拜團體で大いに賑ひ、園池の設備も亦出來て、散策する者が非常に多い。

鴨江寺 市營「バス」鴨江町、觀音前下車

鴨江町にある。觀音で名高い。濱松驛から約一杆。眞言宗高

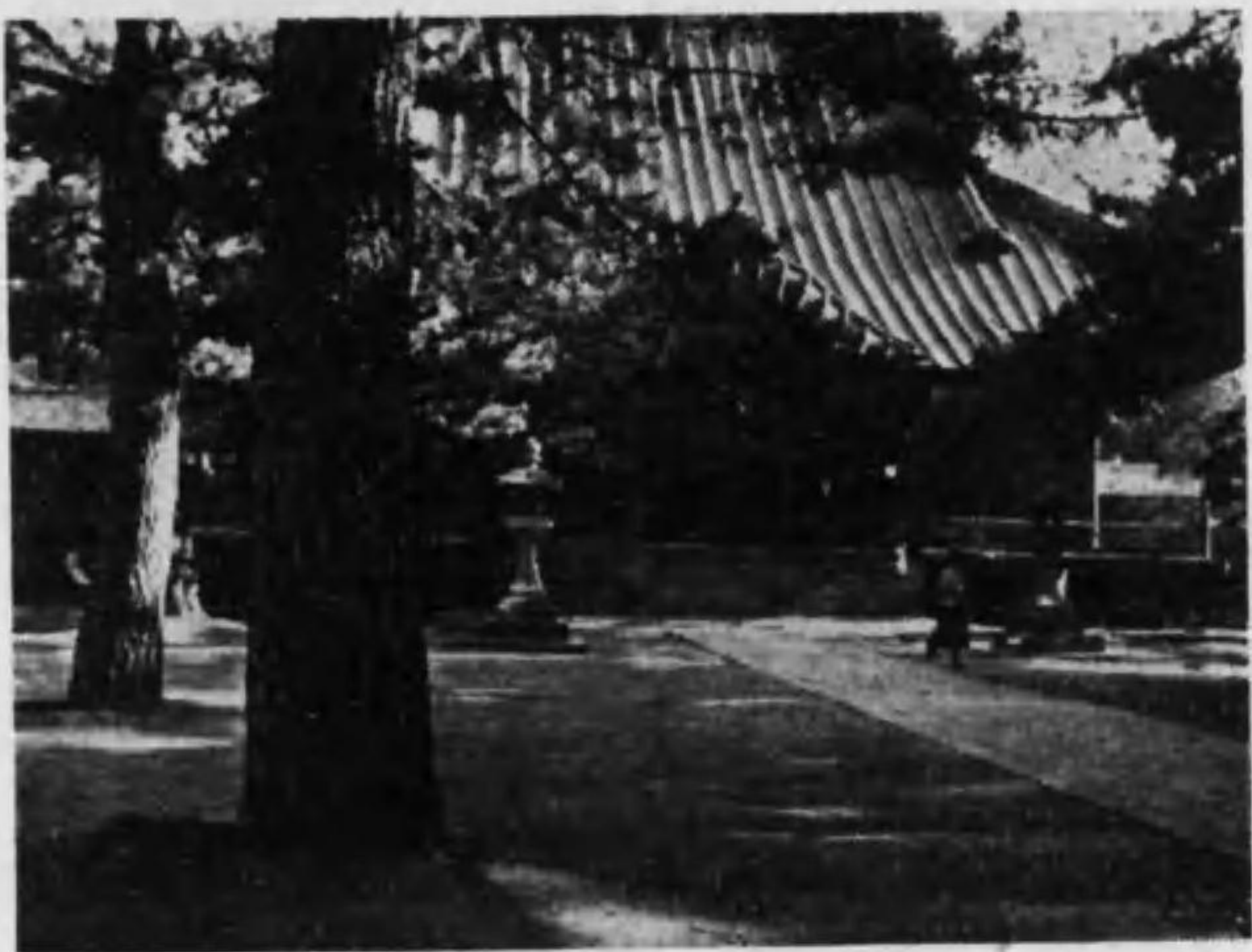


郷社八幡宮

八幡町にある。濱松驛から約一・三杆。玉依日賣命・品多和氣命・息長帶姫命を祀る。初め蛭田郷許部里（今の濱名郡新津村小澤渡）に鎮座申し上げたけれども神託に依つて曳馬の里である今の社地に遷座したと傳ふ。境内には老樹が鬱蒼として頗る森嚴であり境内の「雲立の樟」は古來著名である。



八幡宮境内雲立の樟

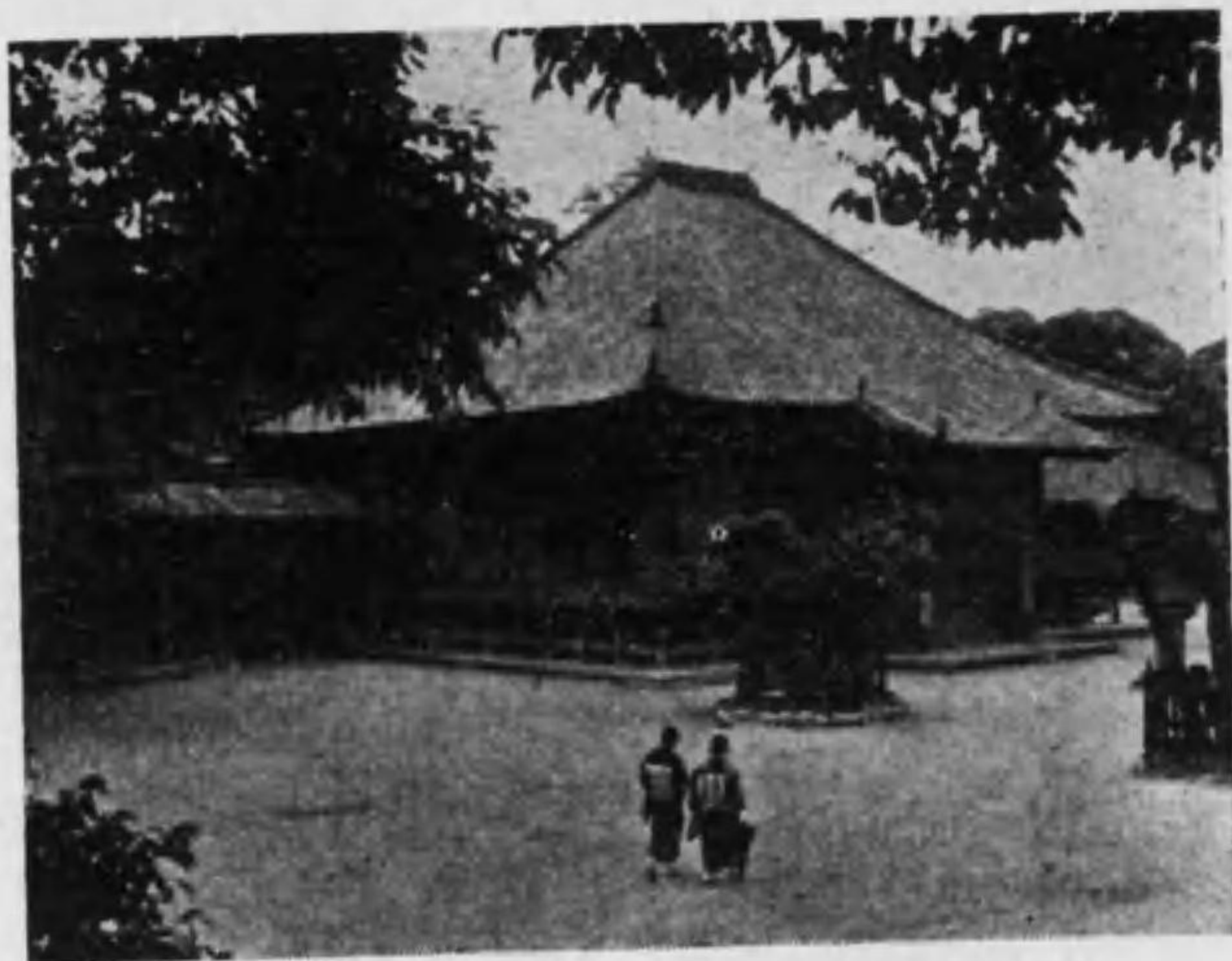


鴨江観音

野山寶壽院末。大寶三年僧行基 聖武天皇の勅願に依つて建立すと傳へらる。維新前は寺領二百十五石、除地十二石八斗、境内衆徒十五院を有し寺門は大層隆盛であつたが維新後寺領は上地、衆徒は廢院に歸した。現在の建物は本堂即ち觀音堂、御影堂、護摩堂、三十三所堂、太子堂、鐘樓、樓門等を有し、寺坊は別に區域を劃して客殿、玄關、庫裏、土藏四脚門、長尾等連接し、後醍醐天皇の綸旨並に足利家判物及び今川家、織田家、豊臣家の判物等を傳へ春秋二季の彼岸には數十萬の參詣者が遠近から群集する。本寺は吉野朝の時官軍に屬して延元四年賊軍に攻められたので有名である。

龍禪寺 市營「バス」龍禪寺町、龍禪寺仁王門下車

龍禪寺町にある。觀音で名高い。濱松驛から約一・四軒。眞言宗高野山寶壽院直末である。維新前は龍禪寺一村百石の朱印を領有して居つたが、朱印地土地の後は殿堂が頽廢に歸した。現在は本堂即ち觀音堂、護摩堂、御影堂、鐘樓、十王堂、樓門を存し、別に客殿、庫裏等がある。寺記に依れば聖德太子の草創で、大同元年坂上田村麿願主となり、殿堂を再建せしも天正



龍禪寺觀音

年間兵火に罹り縁起由來書一卷を残すのみといふ。本寺には元龜年間、近衛前關白晴嗣公が都の難を避けて滞在せられた史蹟を存して居る。

名所舊蹟とところどころ

雲立の樓 市營「バス」八幡町、八幡宮參道下車

八幡町郷社八幡宮の境内にある。古株の空洞猶その跡を存して居る。樹齡一見一千年前後のものである事を思はせる枝が四方に繁茂して社前晝尙暗い程である。昔三方原の戦に敗れた家康が樹上に雲霧の立上つた奇瑞を見たとの口碑は今尙遠近に喧傳して居る。昭和十四年十二月十九日静岡縣史蹟名勝天然記念物保存顯彰規程によつて「天然記念物」として指定せられた。

颯々の松 市營「バス」野口町、八幡宮前通下車

八幡町郷社八幡宮の東方約二百米にその遺蹟がある。野口町に屬して居る。濱松驛から約一・五軒、神託に依り蛭田郷許部

里（今の濱名郡新津村小澤渡）から移し植ゑたと傳へられる松である。次第に成長して枝葉が百間餘に蔓り、恰も臥龍のやうであつた。永享四年足利義教富士遊覽の爲駿河下向の際此の松の蔭に休んで宴を催し、「濱松の音は颯々」と謡つたのでこの里人が此の松を「颯々の松」と呼ぶ様になり、濱松の名稱も此の松から取つたのだと傳へられて居る。

鎧懸松 市營「バス」元城町、天主臺道下車

元城町にある。濱松驛から約一杆。徳川家康が鎧を懸けて休んだのでこの名がついたのだと言ふ。昭和三年夏風雨の爲幹の上部が折損し舊態を存しないのは遺憾である。

賀茂眞淵翁誕生地 市營「バス」鴨江町、縣居神社道下車

東伊場町にある。濱松驛から約二杆現存の家屋は隱居家だと言はれ翁の兩親の隱宅の一部である。生垣園池等舊態の儘之を存して居る。

濱松城址 市營「バス」元城町、天主臺道下車

元城町にある。濱松城は始め曳馬城と稱し永正の頃三善爲連が創めて築いたと傳へられてゐるが詳ではない。永祿十二年徳川家康が三河から本城に入るに及んで大いに城地を修理増設し且曳馬を改めて濱松と稱した。徳川家康が江戸に移つて後は堀尾、松平、太田、水野、井上等老中格の有力な大名の居城となつた。今の元城、松城の地に丘上老樹雜木の裡に天守閣の跡を存し、當時の石垣等現存してゐる。濱松驛から約一杆。

今此處に私人が建設した望樓がある。之に登れば北に三方原、南に太平洋を望み、市内は勿論附近一帯の地は一瞬の下に展開する。

犀ヶ崖 市營「バス」追分町、犀ヶ崖下車

濱松城址の西北にある。今は名残町、追分町に屬して居る。濱松驛から約二・五杆。深さ十數丈、東西に向つて走つて居る溪谷で、兩岸が絶壁をなした下瞰すれば戰慄肌に粟せしめる程である。元龜中徳川、武田の戦に甲斐の軍が地利を誤り、こゝに墜落し人馬死んだ者が甚だ多かつたと言ふ。昭和十四年十二月十九日静岡縣史蹟名勝天然記念物保存顯彰規程によつて「史蹟」として指定せられた。

築山御前の墓 市營「バス」廣澤町、西來院前下車

廣澤町西來院にある。濱松驛から約二杆、築山御前は關口刑部少輔氏廣の女で今川義元の媒介に依つて徳川家康の正室となり、信康龜姫の一男一女を擧げ信康が長じて岡崎城に入ると、招かれて築山と云ふ所に居つたので世に築山御前と云ふ。偶々御前が疾になり甲州の醫を招いて効があつたが此のときの醫を介して信康等が武田氏と歎を通じたとの風評が生じたので信康夫人の父織田信長大いに怒り家康をして處置をなさしめた。家康天正七年八月築山御前を岡崎から遠州に移し、途中入野村小籠（今の市内富塚字小籠）に致つて自刃せしめ遺骸を西來院の瑩域に葬つた。法謚を西來院殿潭月秋天大禪定法尼と云ふ。後築山御前が生害の節刀を洗つたと傳へられる、太刀洗池（市内富塚字小籠にある）で百年忌を行つた爲水が澄んだ奇があつたといふので法謚を青池院殿涼月秋天大姉と改めたと云ふ。

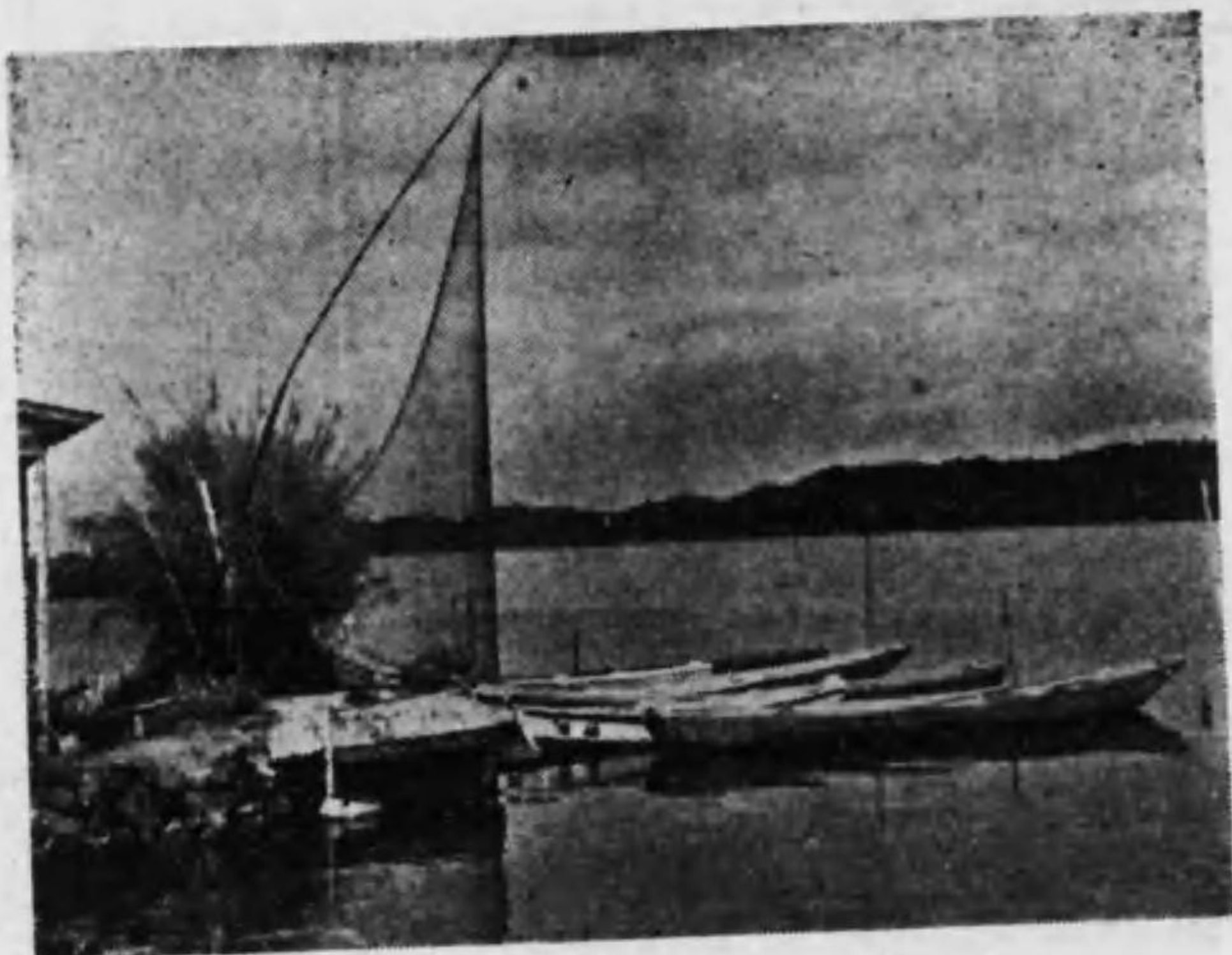


中田島海岸砂丘

平手汎秀の墓 市營「バス」鴨江町、郵便局前下車
濱松驛から約一・六軒。東伊場町稻葉山にある。平手監物汎秀は織田氏の裨將としてその名があり元龜三年十二月武田軍遠州を侵した時信長の命に依つて徳川方の援軍として佐久間信盛と共に兵五千を率ゐて濱松に來た。三方原の戦に徳川軍は利がなく織田軍亦敗れ佐久間信盛は走り、汎秀士卒を督し奮戦頗る力めたが及ばず遂に亂軍の中に戦死した。今の墓所は其の遺骸を收めて葬つた所であると云ふ。

中田島海岸 市營「バス」中田島下車

濱松驛から南方約五・七軒。馬込川の右岸にある。茫洋とした遠州灘に面し青松白砂の勝地で眺望は頗る絶佳水は淺く海水浴に適する。例年夏期遠近よりの浴客が多く、又近來濱松高等工業及各中等學校生徒並に濱松地方の有志によつて結成の濱松帆走飛行協會が帝國飛行協會濱松支部の後援の本に滑空場を設け、毎日曜、祝祭日に會員が五臺のグライダーで指導者の滑空訓練を受け規律的精神と心身の鍛鍊をしてゐる。



佐鳴湖

今次事變に於ける我が無敵空軍の戦史に誇る數々の武勳を偲ぶとき、空軍の第二線である國民航空建設の爲グライダー陣野の構成こそ緊急且切實な問題である、殊に我が國の一般人は科學的知識に乏しいと云はれてゐる折柄意義深いものがある。折があつたら一度は見學をお勧めする。

佐鳴湖 市營「バス」自七月一日至九月三十日運轉、佐鳴湖下車
濱自「バス」富塚 神久留神社入口下車

市内富塚と濱名郡入野村との間にある。濱松驛から約六軒。東西一軒、南北三軒、古來猿投浦と稱し支那西湖の十景に擬して遊覽の勝地である。西岸に根川山兒童遊園地がある。又湖岸に史蹟が多い。近年遊覽の設備が次第に備はり杖を曳くものが漸く増して來た。

商品陳列所・圖書館

濱松市商品陳列所 所在 傳馬町、市營「バス」傳馬町下車

陳列品は當地方物産の縮圖でありまして、販賣、斡旋、紹介に力を注いで居る。尙陳列品は即賣されてゐる。

開館時間 四月一日—十月三十一日 午前八時—午後四時
十一月一日—三月三十一日 午前九時—午後四時
休館日 毎月第二、第四日曜日、毎年十二月三十日—翌年一月三日
四大節、市制記念日
縦覧無料

濱松市立図書館 所在 紺屋町、市營「バス」築町、市公會堂下、下車

本館は内外古今の圖書を保存し公衆の閲覽に供してゐる。

開館時間 一月、二月、三月、十一月、十二月 午前九時—午後九時
四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月 午前八時—午後九時
休館日 毎年十二月二十八日—翌年一月三日、紀元節、天長節、市制記念日
曝書期(十月又ハ十一月中ニ於テ凡ソ十日間) 館内掃除日(毎月末日)
閲覽無料

遊園地・市營運動場

五社遊園地 所在 利町、市營「バス」築町、市公會堂下、下車

園は市の中央高地にある。西端最高地には五社神社、諏訪神社を奉齋し、園内到處に櫻樹がある、又園の中央には日清戦捷記念標があり、或は維新遷都の際當地方有志で皇軍を警護した報國隊の頌徳碑、實業家前田正名男爵の頌徳碑、又は市内従軍戦歿者の忠魂碑等がある。南端には市公會堂が巍然として聳え建つて居る。

鴨江遊園地 所在 鴨江町、市營「バス」鴨江町、觀音前下車

鴨江觀音の境内を公開したもので園内の北部一帯の小丘に櫻桃松杉を混植し、前庭に池があり、中央に辨財天を祭る。春季開花の頃は日々觀櫻の人で非常な賑ひである。又春秋の彼岸會には祖先の冥福を祈るものが遠近から多數集集して雑踏する。

普濟寺遊園地 所在 廣澤町、市營「バス」廣澤町、普濟寺前下車

市内西北の高臺にある東海の古刹廣澤山普濟寺境内に設けられてある。樹林は幽邃で俗塵を避け、清泉は潺々として俗耳を洗ふ思ひがする。園内には瀧があり池があり四時の花卉を植ゑ或は運動場があり遊びに来る者が極めて多い。

天林寺遊園地 所在 下池川町、市營「バス」下池川町、天林寺下、下車

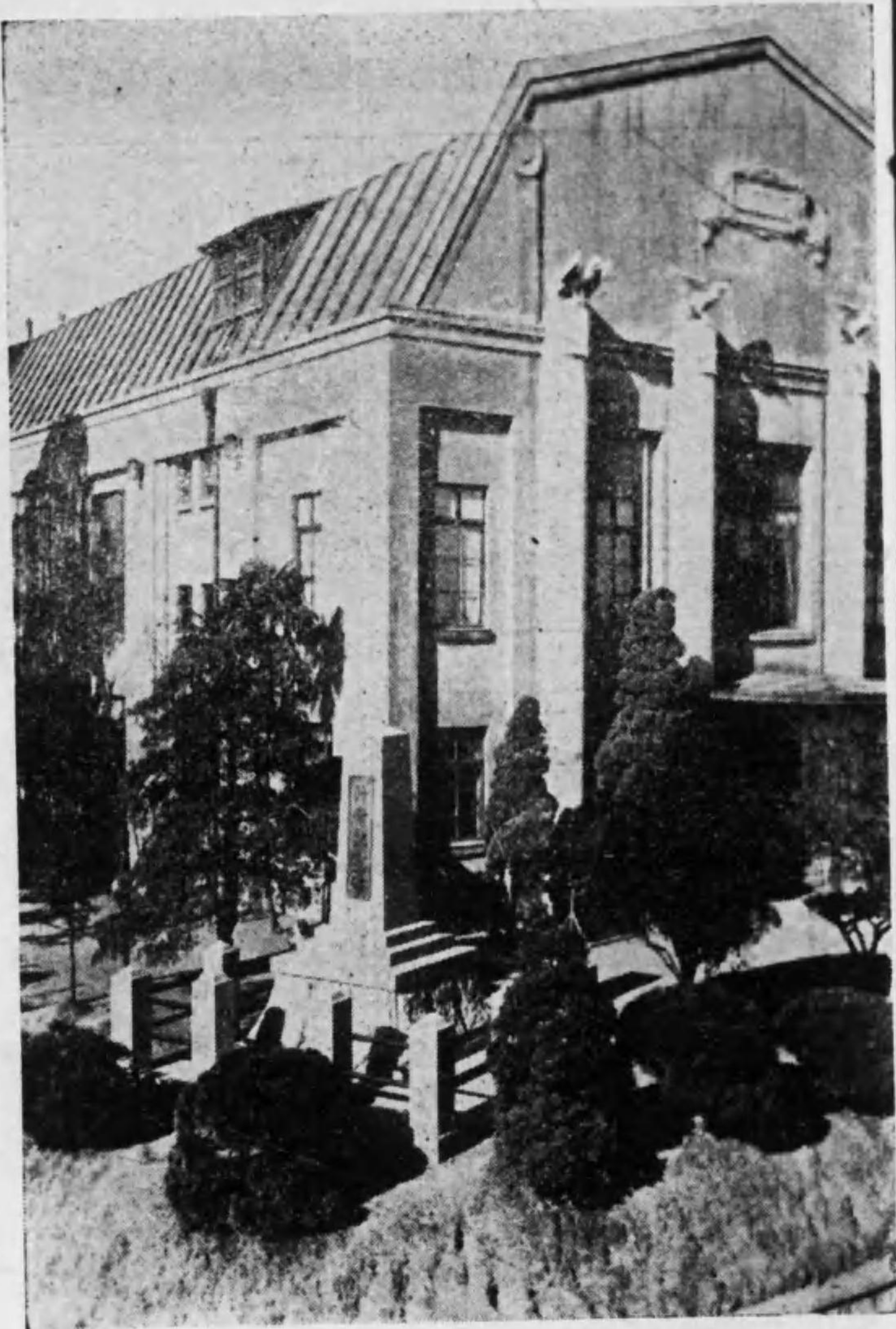
天林寺境内北隅高地を開き公開したるもので密林があり、櫻樹があり、廣汎な運動場があり、殊に園内東北隅の小丘に登ると富士の靈峰が眼前に迫つて眺望の良い所である。

市營運動場

市内上島四ツ池附近の勝地に三萬餘坪の敷地を擁して居る。其の位置は三方原丘陵中腹の平坦地で西は常緑の松林を以て自然の防風林を成し、又眺望臺ともなり、南東北の三方は市街と田園を一眸の下に收め、遙かに富嶽の秀嶺を仰ぎ眞に明淨の境地である、之に通ずる交通機關としては遠州電鐵、濱松鐵道、その他乗合自動車等があり往來極めて便利である。

1. 野球場 2. 陸上競技場 3. テニスコート 4. 水泳プール 5. 遊園地等を併設する豫定で着々工を進めつゝあり、既に陸

附
録



年 中 行 事
郊外鐵道・電車
バス沿線案内



市 街 小 景

上競技場は竣功、その他の竣功も目眩の間に迫つてゐる。

盛 り 場 案 内

「盛り場」と云つても種々あるが、此處には普通に云はれてゐる意味での盛り場、つまり慰樂、遊覽の對象物の集團地區を御紹介する。

▲銀冶町、傳馬町、千歳町、田町、神明町、肴町、連尺町

濱松の盛り場の代表地區で晝夜人の流れは絶えない。松菱、棒屋百貨店を初め各種の大商店が軒を並べて濱松人の購買力を一手に引受けてゐる觀がある。夜ともなれば各町々の飲食店、喫茶店、カフェー、バーからはヂヤズの音が流れて来る。銀冶町、田町の舗道には夕方から屋臺店も出る。此の地區には松竹劇場、濱松新興館、吾妻座、濱松座、三松館、松竹館等の映畫館がある。

▲鴨江町、元濱町、相生町、砂山町、海老塚町

同じ盛り場でも此の町々は各種飲食店、カフェー等で盛つてゐる。鴨江町には二葉遊廓、映畫館二葉館、元濱町には映畫館元濱座、相生町には映畫館相生三松館、砂山町には映畫館電氣館、劇場昭和座がある。

濱松市工業

種別	場数	生産額	種別	場数	生産額
生糸	一七	四、三三、九三五	工作機械	一〇六	七、〇四、七六五
紡績及燃糸	七一	七、三九二、六三九	樂器類	四	二、四〇五、九八七
綿織物	二一七	三九、六三八、九〇五	フィルム及紙類	九	三、一三五、九〇三
人絹織物	五八	一、八八九、〇三九	建具及家具類	一四〇	二、〇三二、三二八
スフ織物	七三	八、三五〇、七七一	製糖	四	四、〇一九、三〇〇
交織物	一八六	六、七四五、四九九	菓子	二九〇	四、一四六、二五七
疊縁	六	一、一七三、九六六	菓子	二一	一、四九一、〇五五
染色及糊付	一〇六	二、六七五、八九九	茶	三	一、二三五、一九一
捺染及整理	五〇	八、九四四、〇三四	帽子	二、四〇〇	二七、六八二、三三五
鑄物	二四	一、八三五、四八七	其他	三、七八五	一三六、一五六、二八四
計			計		
			其他		

濱松の主なる年中行事

一月 初詣(恵方参り)
 官民合同新年祝賀會(市公會堂)
 消防出初式(濱松驛前廣場)
 陸軍始觀兵式
 廿八日 三組町 秋葉神社火祭り

二月 紀元節、建國祭(利町五社神社境内)
 釋迦涅槃會
 初午、節分(追儼、高町正福寺(半僧坊別院))

三月 陸軍記念日
 彼岸會(鴨江町鴨江觀音) 桃花(三方原附近)
 彼岸櫻

四月 神武天皇祭
 花祭(利町五社、諏訪神社、八幡町八幡宮境内)
 天長節
 花見(利町五社、諏訪神社、八幡町八幡宮境内)
 廣澤町普濟寺 下池川町天林寺境内)
 沙干狩(辨天島) さつき(三方原)

五月 一日より 風揚げ祭り(晝間三方原々頭、夜間市中)
 三日より 總社祭典(利町五社、諏訪神社)
 五日より 海軍記念日
 廿七日 藤(廣澤町西來院境内)

六月 市の記念日

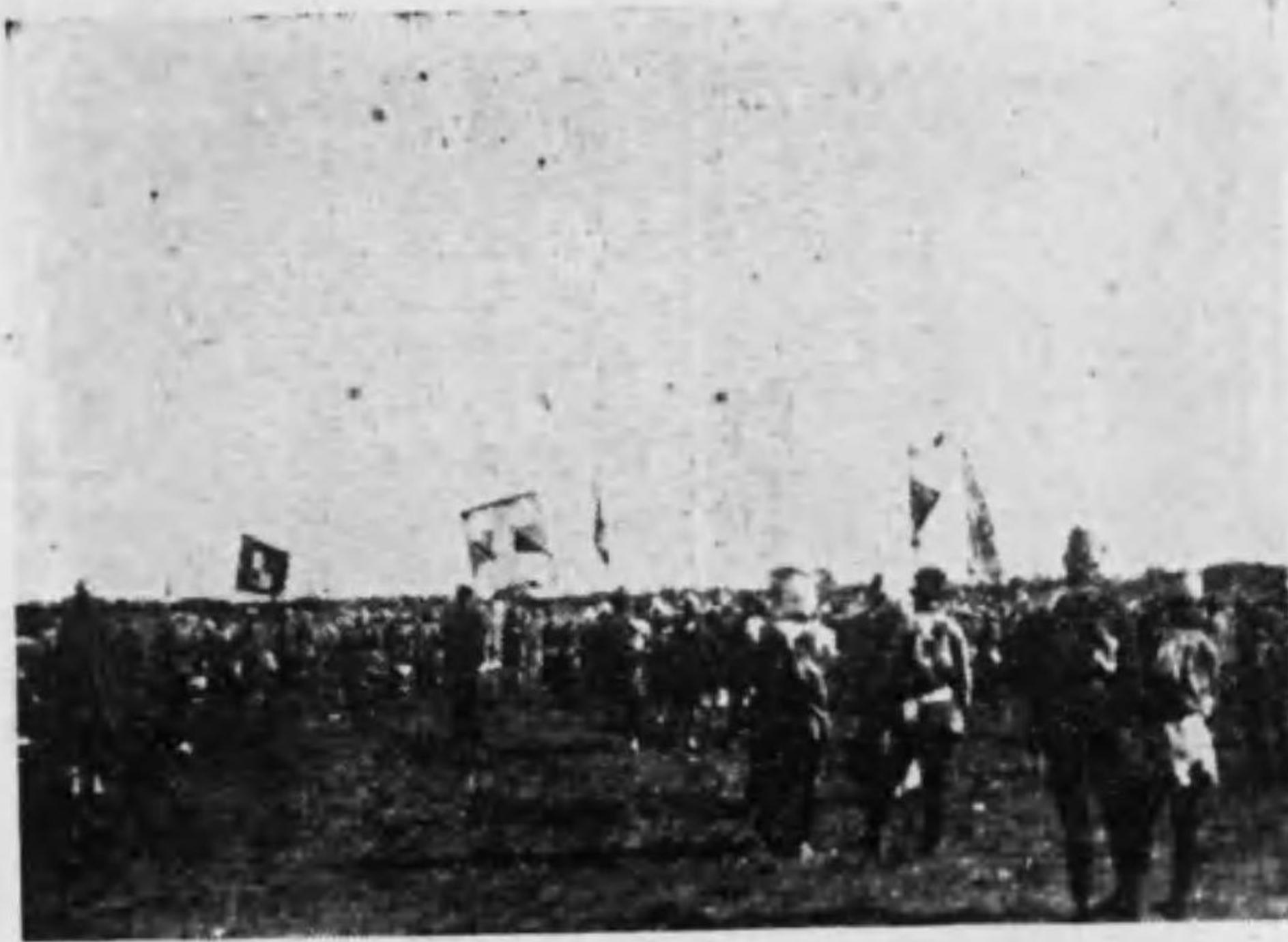
七月 市制施行記念祭(市公會堂)
 海水浴(佐鳴湖、中田島海岸、辨天島、新居辨天)

八月 龍禪寺町 龍禪寺觀音大祭(煙火打上げ)

九月 彼岸會(鴨江町鴨江觀音)

十一月 明治節
 一日より 濱松商工祭(式典總社五社神社、
 十五日まで 全市商店大賣出し)

十二月 西の市(旭町法雲寺、鴨江町二葉神社境内)
 廿一日 上島 天白社星祭り
 歲暮大賣出し



風揚場賞況

彼岸會

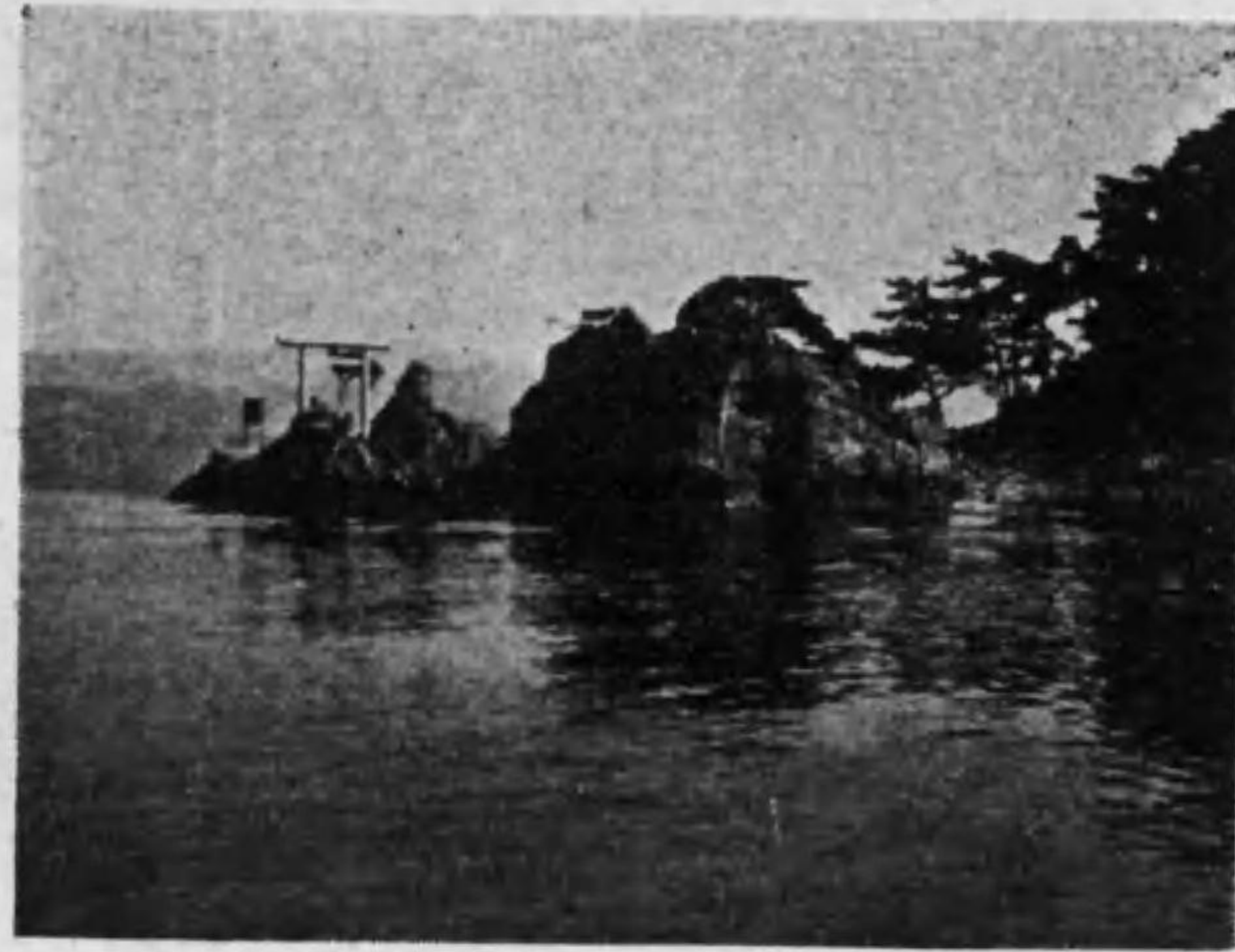
所謂彼岸は七日間で、市内の鴨江観音が非常な賑やかである。殊に春分の日は中日と言つて、非常な雑沓を極める。お鴨江に行くとは彼岸の参詣を意味する程の賑やかさで、市を中心とした數軒四方、遠きは汽車で参詣するものも多く、年々一日に數萬の人数がある。新佛のある家では初日の未明に必ず参詣して水を手向けるならはしがあつた。佛が必ず成佛すると信ぜられてゐるのである。沿道の商家では六尺柄の杓を鬻いでゐる。見世物、露店、植木等が多い。

濱松名物 風揚合戦

古來端午の節句は男兒の節句として五月幟を立て、武者人形を飾り甲冑等を陳列し菖蒲、粽等を供へて其の出世を祝つたものであるが、濱松地方では更に風を飛ばせる風がある。初めは風を揚げて觀望するに止つて居つたのが何時の頃からか互に挑戦し所謂風合戦を爲すに至つた。

永祿年間飯尾豊前守の長子義廣誕生の際入野の者で佐橋甚五郎が風の大きなものに其の御名を記して之を揚げたのが起源だ

といふ。その後松平伊豆守が三州吉田へ引越の前年濱松と吉田(今の豊橋)との風合戦を三方ヶ原で行つた。斯くて維新後漸く大仕掛となり自然種々の弊害を伴ふのを免れなかつたので明治の中葉に至つて毎年五月一日から五日迄三方原々頭で之を行ひ又個人間の紛争を慮り、統監部を設けて統制することゝなつた。日暮れになると各町旗を建て提灯を列ね、風揚の用具は車に積み、笛、太鼓を以て囃し立て、歸る其の有様は祭典の様なものである。大正十一年本市總社縣社五社神社の例祭を五月四日と定めてから各町の花車屋臺が市街を練り廻つて一層盛況を加へる様になつた。昭和九年より五社神社の神輿風揚場に渡御し給ふに至つて觀衆は更に多くなつた。



濱名湖 戸猪鼻岩

郊外鐵道・電車・バス沿線の名所

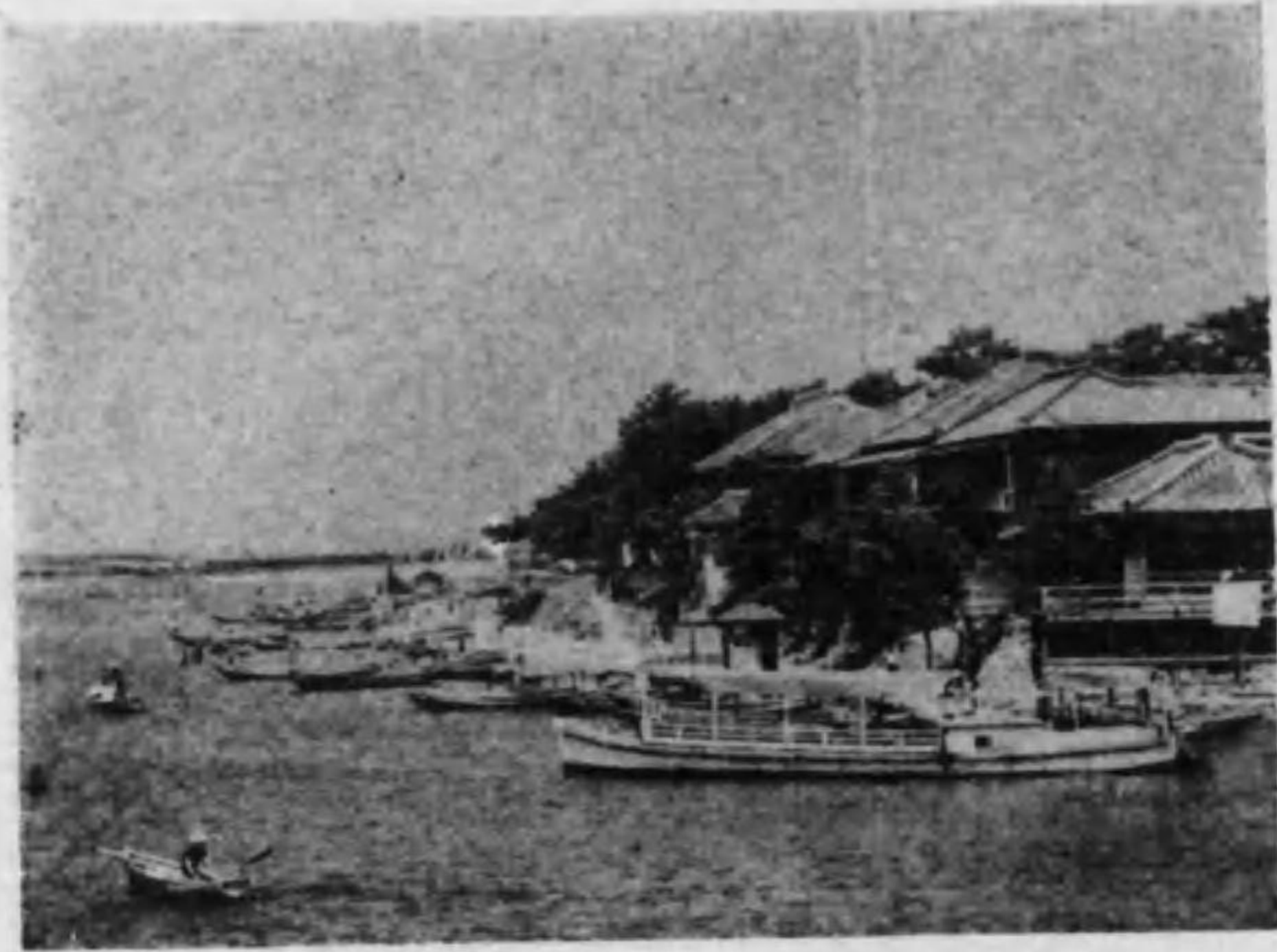
◇省線東海道線附近 (費用・所要時間共特記なきは片道とす)

濱名湖 (下車驛) 辨天島 (費用) 二〇錢 (所要時間) 一八分

濱松市の西十二軒。東海道線辨天島驛の北にある。南は遠州灘に通じ北は丘陵で圍まれ紺碧の水を湛へて居る。東西約七軒、周廻約九十二軒ある。古來數回の海嘯に依つて湖畔が缺潰し海に通ずる様になつた、こゝを今切と云ふ。湖畔は絶勝に富み、小野湖山翁が嘗てその八景を撰んだ事は人口に膾炙して居る。八景とは

濱名長橋 (象洲漁火 (象洲は即ち辨天島なり)。館山秋月。磯島松風。鷺津櫻花。本坂紅葉。追門奇巖。高師晴靄である。湖畔は常に風光明媚だけでなく、近年水産養殖を以て有名である。その主なるものは鰻、鯉、牡蠣、あま海苔、鰻等である。

辨天島 (下車驛) 辨天島 (費用) 二〇錢 (所要時間) 一八分



辨天島

東海道線辨天島驛 (東海道線濱松驛から約十三軒) の所在地で濱名湖口の東岸に近接せる四小島である。青松白砂の勝地で北は湖水を隔て、濱名、引佐の峰を望み南は今切口から外洋に連り、東は遙に富嶽を雲間に望み、附近は遠淺で水清く、海底悉く細砂である。尙砂洲が東西から斗出してゐるので波浪を防ぎ潮の干満を緩和する。近年旅館及び遊樂の設備が具はり絶好の海水浴場と稱せられて遠近から來遊するものが非常に多くなつた。

□旅館 小松屋、茗荷屋、伊勢屋、松月、開春樓、丸文、登喜和、白砂亭。
濱名湖ホテル、辨天館 (夏季以外は休業)

新居關所址 (下車驛) 新居町 (費用) 二五錢 (所要時間) 二五分

濱名郡新居町宇泉東海道線新居町驛の西約〇・五軒にある。建物は安政震災後の建築であると言はれてゐる。大正十年特別保護建造物に指定され、當時の書類等數點を存してゐる。

本興寺 (下車驛) 鷺津 (費用) 三〇錢 (所要時間) 二九分

濱名郡鷺津町にある。東海道線鷺津驛の西約〇・八軒、法華



秋葉總本殿

宗の名刹で本堂即ち薬師堂は特別保護建造物に指定され、寶物中には國寶に指定せられたものが數點ある。境内は濱名八景の一に數へられる勝地である。

可睡齋 濱松驛→袋井驛(電車乗換)↓可睡(費用)四二錢

(所要時間) 汽車二七分、電車一二分

周智郡久努西村字久能にある。東海道線袋井驛の北約三・二軒。應永十年天間の創建で曹洞宗の中本山である。境内には火防の守護神として世の崇信篤い三尺坊大権現を祀る秋葉總本殿がある。寺域廣く中庭に牡丹園があり。又境内の西方丘上に日露戦役戦死者の爲に建立した護國塔がある。初夏牡丹開花の頃には參詣行樂の者で非常に賑ふ。

法多山(尊永寺) 濱松驛→袋井驛(バス乗換)↓法多山(費用) 汽車三〇

錢バス(往復)三五錢 (所要時間) 汽車二七分 バス一五分

磐田郡袋井町豊澤にある。法多山と言ふ。東海道線袋井驛から約四軒、眞言宗高野派に屬して本尊は不動明王である。堂宇

は莊嚴、境域は幽邃で、風致に富んで居ると厄除に靈驗があると言はれる爲め賽者が常に斷えない。

油山寺

濱松驛→袋井驛(バス乗換)↓油山寺 (費用) 汽車三〇錢 バス(往復)三五錢 (所要時間) 汽車二七分
バス二〇分

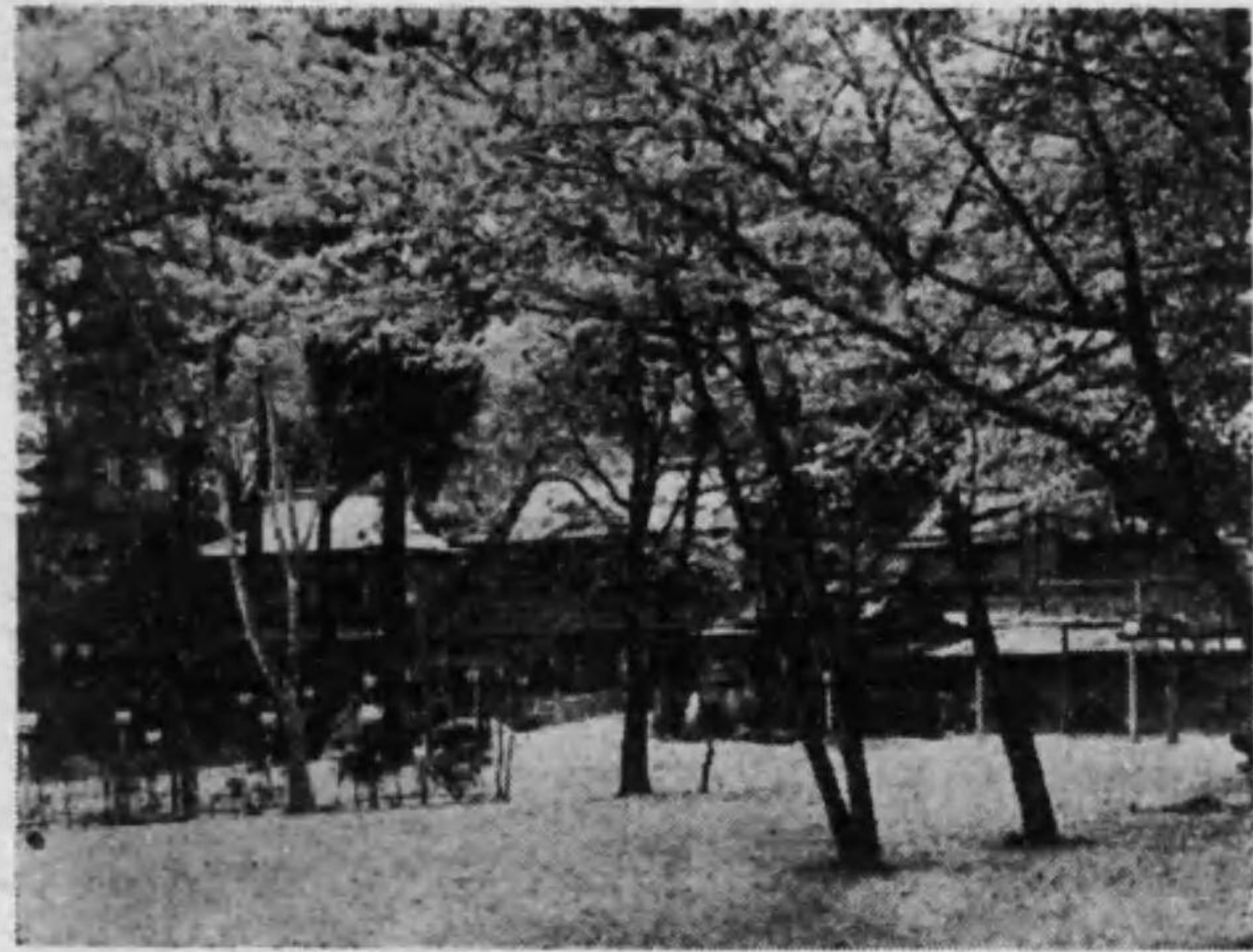
周智郡久努村村松にある。東海道線袋井驛の北東約六軒。本寺は人皇四十六代 孝謙天皇の御勅願所で、天平勝寶元年(約千二百年前) 行基菩薩の開創になるといふ。本尊は薬師如来で天正二年中興第一世法印快雄以後累代相繼ぎ、寛永元年自坊が焼失し、朱印その他の舊記寶物悉く烏有に歸したと言ふ事である。その後慶安元年家光より改寺領四十七石の朱印があり今の薬師堂は元文四年再建されたものであると言はれる。境内に瑠璃瀧及び三重の塔があり、瑠璃瀧は 孝謙天皇が御眼病に悩ませ給ふた時、行基菩薩がこの瀧の水を加持水として献ぜられた所がその効が著しく忽ち御平癒遊ばされたと言ひ傳へられてゐる。三重塔は慶長十六年久野丹波守の再建に係るもので、安置する本尊は弘法大師の作になる大日如来で往古から眼病治療の靈驗を以て知られ參詣者が絶える事がない。

遠州電気鐵道方面

岩水寺

遠電旭町驛→西鹿島驛(省線二俣線乗換)↓岩水寺驛 (費用) 四六錢 (所要時間) 電車四三分
汽車五分

濱名郡赤佐村根堅にある。二俣線岩水寺驛の東北約一軒。眞言宗の巨刹で堂宇は壯麗で加へるに境内は山



岩水寺遊園地の櫻

が深く水が清く、櫻、紅葉によつて知られてゐる。内佛子安地藏尊は安産の靈験があると傳へられて参詣者が常に絶えない。山上の巖窟から鑛泉が湧出する。近年旅館、休憩所等の設備が備はり杖を曳くものが多くなつた。

□旅館 環翠樓 仲屋

光明寺

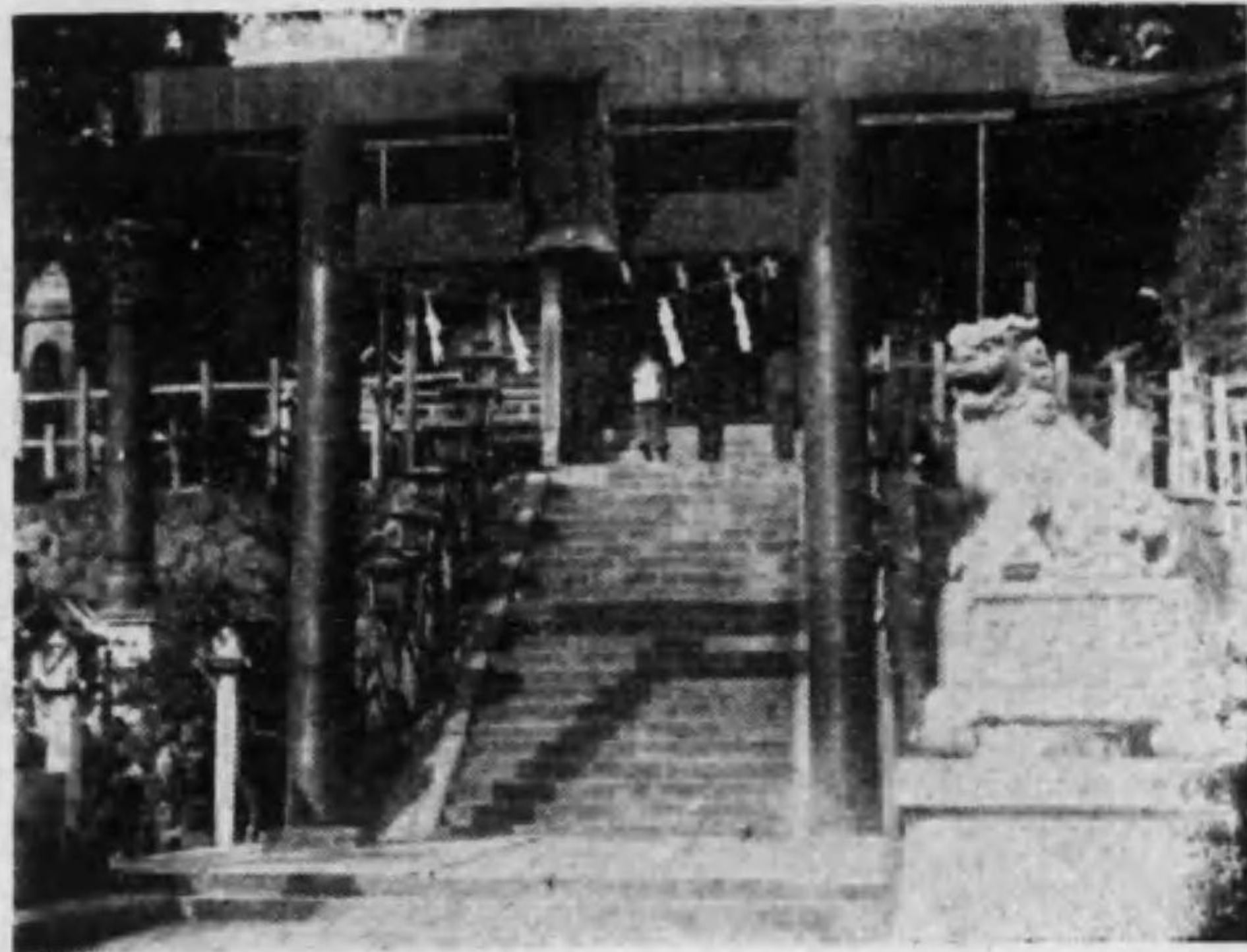
遠電旭町驛→西鹿島驛(秋葉バス乗換)→山東

(費用)五六錢 (所要時間) 電車 四三分 バス 二〇分

二俣町東端光明村山東にある。遠電西鹿島驛の東北約三軒。光明寺は行基菩薩が光明山の不思議な瑞祥によつて草創したもので國家鎮護の道場として往昔から秋葉山と共に廣く世の崇敬を受けて居る。虚空藏菩薩、笠鋒坊大権現、摩利支天、大黒天を祀る。摩利支天は敵一倍の力を授かると言はれて武將の歸依が厚く、大黒天は開運授福の神で名高い、天平の昔草壁王子の武勇や徳川家康の覇業の完成には奇瑞があつたと言はれてゐる。

恒規祭典 甲子祭 年六回 甲子の日

秋季大祭 十月二十六日より二十八日まで



縣社秋葉神社

縣社秋葉神社

遠電旭町驛→西鹿島驛(秋葉バス乗換)→秋葉山麓

(費用) 廻遊、二圓 (所要時間) 電車 四三分 バス 一時

間一五分 徒歩上り約二時間 下り約一時間

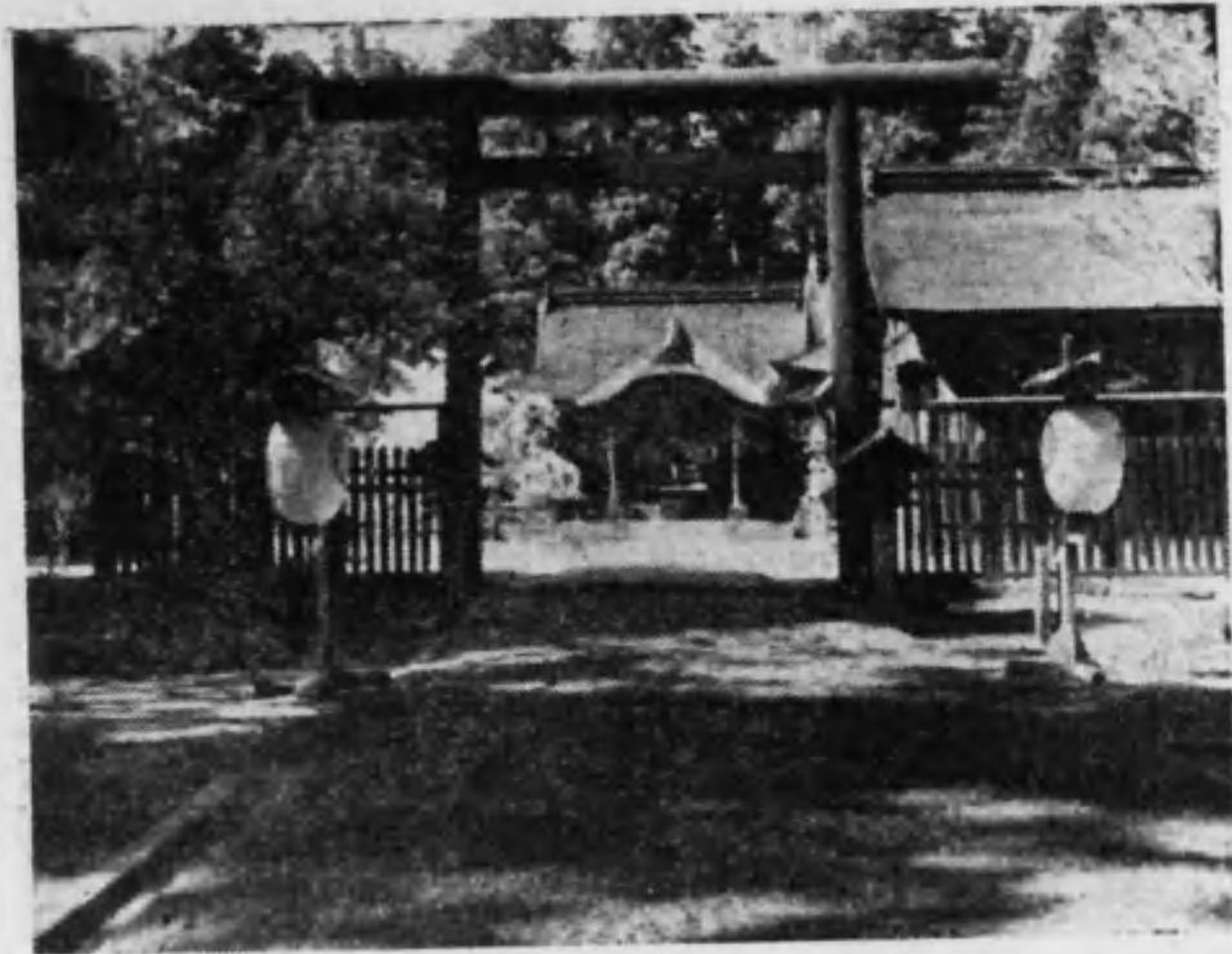
周智郡犬居町領家秋葉山上にある。犬居町坂下(秋葉山麓)から徒歩で約四・五軒。祭神は火之迦具土神で防火の神として崇敬せられてゐる。和銅年間の創建であるといふ。毎年十二月十五、十六の兩日は防火祭を行ひ遠近の崇敬者で参拜するものが數千人に及ぶ。本殿は山頂に在つて近くは南遠の村落、河流一幅の畫圖に收められ、遠くは太平洋の水が遠く天に接し、明媚雄大の景が双眸に入り來る。

國幣小社小國神社

遠電旭町驛→西鹿島驛(省線二俣線乗換)→遠江一宮

驛(所要時間) 電車 四三分 汽車 三七分(費用)六一錢

周智郡一宮村の北端宮代山の麓にある。二俣線遠江一宮驛から北約二軒半。境内は松檜の喬木森々として天に摩し梢の風聲は溪流に和し幽境の趣致を極め神威自ら詣する者をして崇嚴の氣に打たしめる。神橋を渡つて鳥居を過ぎると神池があり。本



國幣小社小幣神社

殿は出雲造で舞樂殿等がある。祭神は大己貴命（おほみちのみのみこと）を祀る。本社は人皇二十九代 欽明天皇十六年二月十八日（約一千三百八十年前）の草創で爾來奉幣の勅使が絶えることがない。祭典は四月十八日に行ふ。本社の舞樂は 文武天皇から献ぜられた十二段舞樂を今猶舞ふ事を例としてゐる。陽春四月は境内の櫻樹が數千本満開して祭典とともに賑ふ。本社の東約一軒の山中に鹽井がある。

◆濱松鐵道方面

三方原（下車驛） 錢取（費用） 一二錢（所要時間） 一六分

濱松市の北部高地に連接して濱名、引佐兩郡にまたがり、東西九軒、南北十五軒。往昔から曳馬野と言ひ和歌の名所としてその名が高いのみでなく、濱松宿の古名である曳馬驛の名稱の起源として、徳川、武田兩軍の古戰場としてその名が聞えてゐる。その中を濱松鐵道が南北に貫通して居る。

官幣中社井伊谷宮（下車驛）井伊谷（費用）四四錢（所要時間）五八分



官幣中社井伊神社

濱松市の北引佐郡井伊谷村井伊谷にある。濱松鐵道東田町驛から約二十軒。井伊谷停車場の東約二百米。後醍醐天皇の皇子宗良親王（むねよし）を祀る。親王が延元年中井伊道政を随へて奥山城及び井伊谷城に據り屢々賊軍を邀へ撃ち給うたが軍に利がなく、陣を撤して諸國を流離し給ひ遂に井伊谷城に薨じ給ふた。境内は松杉が蒼鬱として裡に神殿、權殿、拜殿、神門等神々しく、御墓は神社の後方に在る。

龍潭寺（下車驛）井伊谷（費用）四四錢（所要時間）五八分

引佐郡井伊谷村にある。濱松鐵道井伊谷停車場から徒歩約二百米で山門に至る。聖武天皇天平五癸酉年（約千二百年前）行基菩薩の開創になり、本尊は行基自作の地藏菩薩を安置してある。後寛弘七年元旦八幡社の井中から赤兒が化現した。沐浴せしめて白粥を進めた。兒が七才の時村櫛城主自ら養つて家を嗣がせたのが井伊家の高祖共保公である。公が長じて井伊谷に城を築き井伊を姓として井を幕の紋章とし、又井の側に橋の樹があつたので橋を家の紋章とした。寺院から約二百米田圃中に出誕の井がある。本堂には左甚五郎作の鶯張間口十二間奥行三



殿 本 坊 僧 半

間の廊下があり今尚ほ完全に残つてゐる。小堀遠江守の造營に係る庭園本堂を圍んで莊麗を極めてゐる。

方廣寺 (下車驛) 奥山 (費用) 六〇錢 (所要時間) 一時間一二分
濱松市の西北引佐郡奥山村にある。濱松鐵道東田町驛から奥山驛まで約二十四軒。同驛から約一軒。十三の支坊三百餘の末寺を有する臨濟宗の本山である。開基は、後醍醐天皇の皇子圓明大師 (開山無文元選禪師は明治十七年五月聖鑑國師の謚號を賜り昭和十三年四月圓明大師の徽號を御宣下あらせらる) で二十八字の堂塔伽藍が幽邃な溪谷、老杉巨柏の間に隱見して居る。景致に富み脱俗の聖地である。

半僧坊
方廣寺境内にある。堂宇は結構輪奐の美を盡す。半僧坊大權現を祀つてある。圓明大師護法の權現であると傳ふ。毎年十月の大法會には勿論連月十六、十七の兩日は信者が遠近から群集する。

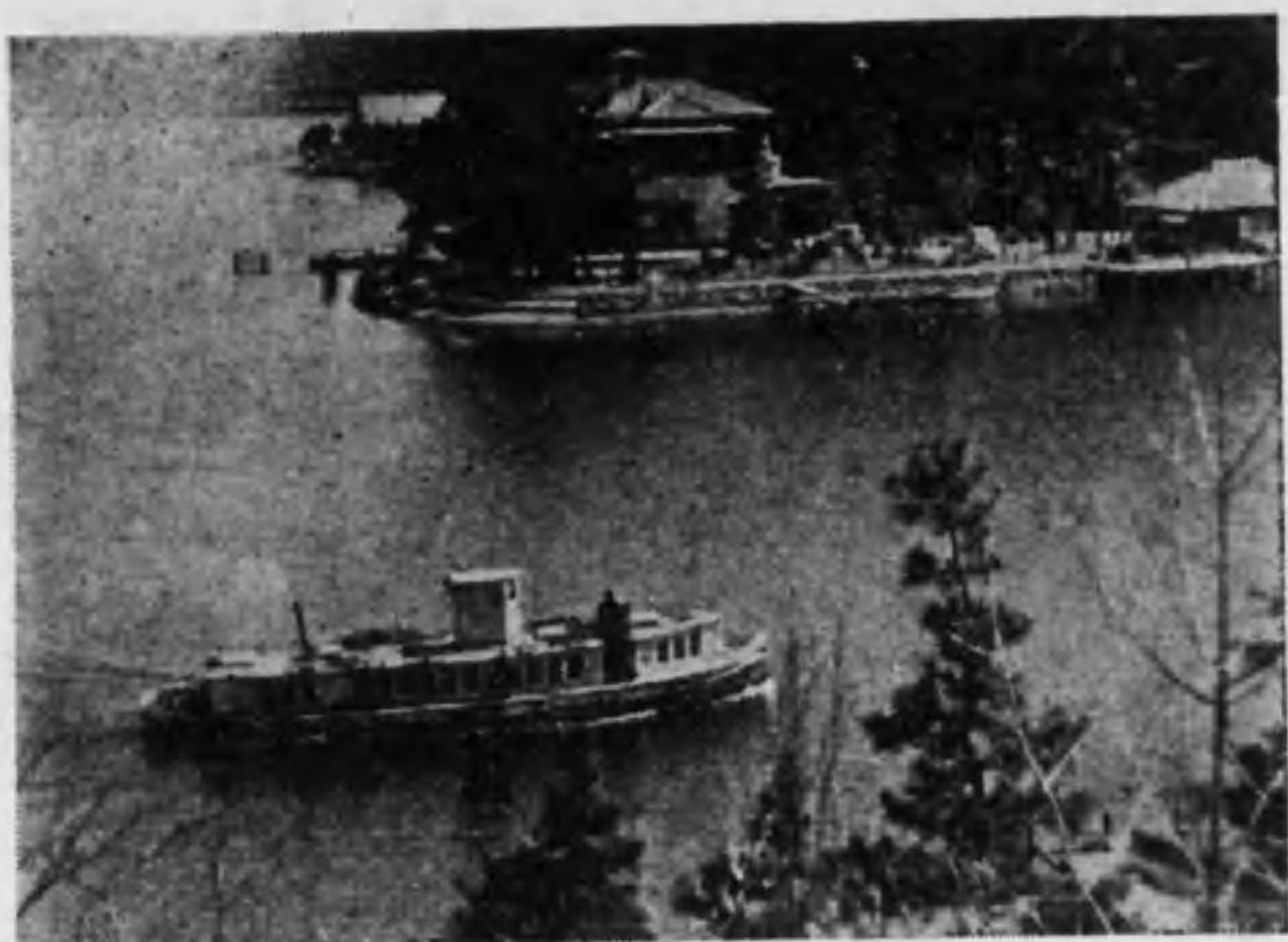
大福寺

濱松鐵道東田町驛↓金指驛(省線二俣線乗換)↓三ヶ日驛(バス乗換)↓大福寺 (所要時間) 一時間二三分 (費用) 六七錢
驛前氣賀バス↓氣賀町(遠三バス乗換)↓三ヶ日町(バス乗換)↓大福寺 (所要時間) 一時間二七分 (費用) 七〇錢

引佐郡三ヶ日町にある。三ヶ日驛から北約二軒半。當大福寺は元幡教寺と言ひ、清和天皇貞觀十七年(約一千九十年前)名僧教待和尚の創立になり、濱名藥師瑠璃光尊(理趣仙人の作で風來寺藥師如來と同木同作である)を本尊とし、脇立に小野篁の謹作になる聖觀音十一面觀音の二菩薩を奉祠せらるゝ事が天闕に聞え長くも勅願所となつた。後三百三十年を経て、土御門天皇の朝、神戸の莊司正六位大中臣朝臣時定卿風來山が遠く且つ嶮である事を不便として、同寺を奏請した。承元四年、土御門天皇は特に大福寺といふ勅額を賜ふたので大福寺と改稱した。寶物多く

- 一、普賢十羅刹女像圖(藤原信實公筆)時代七百餘年一幀
- 一、卜部六郎季武の負ひし桐の笈(時代九百餘年)一個
- 一、瑠璃山年錄殘編(時代六百餘年)二卷

右三點は國寶に指定されてゐる。その他、天皇御下賜の品、弘法大師作、雪舟、蜀山人濱名納豆の歌、古代の畫幅物及南北朝時代の珍奇な古文書等が藏してある。猶ほ當寺は古來納豆を傳製し徳川將軍へ年々進獻せるを例として居る。元和年中、後水尾天皇の御宇以來幕府閣老連署の證狀を以て驛傳に附し禁闕に献上したと言はれて居り、誠に當寺の光營と云ふべく、古來諸書に遠江名産濱名納豆と稱する様になつたのは即ち當寺の創製するものと言ふのである。



寺 山 館

摩訶耶寺

濱松鐵道東田町驛↓金指驛(省線二俣線乗換)↓三ヶ日驛

(所要時間) 一時間一六分(費用) 五七錢

驛前氣賀バス↓氣賀町(遠三バス乗換)↓三ヶ日町

(所要時間) 一時間二〇分(費用) 六〇錢

引佐郡三ヶ日町にある。三ヶ日驛から北約一軒半。聖武天皇勅願の靈場で本尊は厄除聖觀世音である。行基菩薩の開創になると言ふ。初め富幕新羅堂にあつたのを後只木、千燈峯に移して眞宣寺と言ふ様になり後今の處に移り摩訶耶寺と改めた。寶物の子育千手觀音並に波切不動明王は國寶に指定された。境内に俱梨迦羅の瀧があり、奇巖岬々として峙ちその間に百尺の瀑布が懸つて居る。

◆濱松自動車沿線

館山寺 (下車地) 館山寺 (費用) 往復八〇錢(所要時間) 五〇分

濱松市の西北約十六軒。濱名郡北庄内村堀江にある。濱名湖中に斗出した丘陵で、奇岩突兀し、碁布散點し、疎松がその間を彌縫して頗る雅趣に富んでゐる。雅客は此の地を赤壁に擬

し、觀月の勝區として濱名八景の一に數へられてゐる。近年ホテルその他の觀光施設が整備せられ、四季遊覽客で賑ふ。

□旅館 館山寺ホテル、山水館、小波館、喜樂館

◆遠州乗合自動車沿線

熊野御前遺跡 (下車地) 池田入口 (費用) 二〇錢 (所要時間) 三五分

天龍川の東岸磐田郡池田村池田に攝取山行興寺と言ふ寺院がある。時宗藤澤遊行寺の末寺である。濱松から約八軒。本堂の側に謡曲で名高い熊野及びその母の古墳がある。本寺境内に藤の古木があり、初夏開花の候頗る味ふべきものありて見物の人で賑ふ。又此處から南四軒餘同郡長野村字前野にその侍女薨の墳墓がある。

見付天神社

(縣社矢奈比賣神社) 驛前遠バス↓見付町天神社前(所要時間) 五〇分(費用) 往復六〇錢
濱松驛↓中泉驛(遠バス乗換)↓見付町天神社前(所要時間) 汽車一七分、バス一〇分、(費用) 汽車二〇錢、バス八錢

磐田郡見付町天神平にある。濱松から約十六軒。矢奈比賣命を祀る。創建の年代は詳かでないが延喜式の内列してある。往古は本町元天神(現社地より東北約二軒)の地に奉齋せられて居つたのを現在の地に遷座せられた。(年代不詳)。

陰曆八月十日夜裸祭の神事があり有名である。氏子の男子（老幼を不問）裸體に腰蓑を着けて神社に参拜し月が入ると再び神社に到り拜殿内に跳舞する之を鬼踊と俗稱する。後全町の燈火を消し全く暗黒の裡に神輿を奉じて總社縣社淡海國玉神社に奉遷申し上げる。

本社には往古人身御供の行はれたるものゝ様で正和年中（約六百二十年前）信濃國上伊那郡赤穂村光前寺から悉平太郎（犬の名）を借り受け怪物を退治しその害を除いたと、當時本社社僧から謝恩の爲め奉納した大般若經百六卷同寺に現存してゐる。

神苑（社後）には數千株の躑躅並その他の花樹を植栽してある、四、五月頃の眺め殊に宜く一日の散策に適する。

◆掛塚自動車沿線

頭陀寺（下車地）頭陀寺（費用）一〇錢（所要時間）一〇分

芳川村都盛にある。濱松から約三軒。眞言宗に屬して藥師如來を本尊とする。文武天皇の御宇大寶三年海底から、藥師佛の像一軀を得、僧圓空、天皇に奏し之を三方原の一部である平萬敷地に佛閣を創し青林山とある御宸書を賜ひ、寺を號して頭陀寺と云ふ。清和天皇の御宇、貞觀五年八月、當寺を以て、定額に預け賜たのである。長保二年佛閣僧坊今の地に遷移申し上げた。後兵燹に罹り僧坊十二宇、皆烏有に歸した。今の堂宇はその後の造營である、即ち本堂、御影堂、大佛殿、三重塔、仁王門、行者堂、庫裡で今川豊臣氏以下の判物數種を藏して居る。

本寺寶物 弘法大師の筆不動像、金岡の不動の縫像、智澄大師筆五大尊像、弘法筆般若心經、運慶作鬼面等

松下屋敷（下車地）頭陀寺（費用）一〇錢（所要時間）一〇分

馬込川の東、芳川村頭陀寺にある。濱松から約三軒。昔永祿・元龜の頃。松下嘉兵衛之綱、代々濱松城主の旗本となつて住つた所である。永祿十二年正月二十二日、掛川で氏眞朝臣と濱松方との戦ひの時、今川家の侍、菅沼帶刀を天王山に討取り手柄を立てた。その後天正二年長月に武田勝頼が天龍川に來た時、大物見にも出た由、武勇秀た武夫である。此の之綱が後に石見の守となつて、下野國壬生の城主となつたと云ひ傳へて居る。又天文廿二年の頃、豊臣秀吉、尙藤吉郎と言つた時尾張の國から爰に來て、彼の松下に仕へたと傳ふ。

鎌研池（下車地）頭陀寺（費用）一〇錢（所要時間）一〇分

芳川村頭陀寺にある。濱松から約三軒。豊臣秀吉公、尙藤吉郎といった頃、即ち天文二十二年寅三月から永祿元年四月頃迄松下之綱に奉公の砌、草刈に出て鎌を研いだところであると昔から言ひ傳へらる。今は、僅にその跡を存するだけである。

□濱松を中心とした好適遊覽コース□

<p>○秋葉山・南天龍川下り</p> <p>濱 松 ↓ 西鹿島(電車)四三分 西鹿島 ↓ 犬居坂下(バス)一時間一〇分 犬居坂下 ↓ 秋葉神社(徒歩)二時間 秋葉神社 ↓ 雲名(徒歩)一時間 雲名 ↓ 西鹿島(バス)一時間四分 「雲名」 ↓ 西鹿島(舟)二時間 西鹿島 ↓ 濱 松(電車)四三分</p> <p>但舟下りなし 廻遊券二圓</p>	<p>○奥山方廣寺、半僧坊・井伊谷宮・龍潭寺</p> <p>濱 松 ↓ 奥山(私鐵)一時間一二分</p> <p>一圓二〇錢(往復)</p>	<p>○館山寺・濱名湖巡り・辨天島</p> <p>濱 松 ↓ 館山寺(バス)五〇分 館山寺 ↓ 津(巡航船)一時間一〇分 津 ↓ 辨天島(省線)一一分 辨天島 ↓ 濱 松(同)一八分</p> <p>一圓二〇錢</p>	<p>○可睡齋・油山寺・法多山</p> <p>濱 松 ↓ 袋井(省線)二七分 袋井 ↓ 可睡齋(電車)一二分 可睡齋 ↓ 油山寺(バス)二〇分 油山寺 ↓ 法多山(同)一五分 法多山 ↓ 濱 松(省線)二七分</p> <p>一圓五四錢</p>
--	---	---	---

天龍川下り

中部―瀬尻 十 八軒 一時間半・中部―西川二十四軒 二時間
 中部―鹿島 四十四軒 三時間半・(和船、水量により差違あり)
 雲名―鹿島 十 八軒 二時間



中部―瀬尻間の川下りの名勝

竹輪瀬、豆こぼし、胸度、峽石(せばいし)、八間(八絵)、戸口瀬、戸口瀧、成瀬神淵、大輪、瀬美、成瀬八大龍王、

天龍川は大正元年九月英國コンノート殿下が信州飯田から遠州鹿島(二俣)まで約百八軒の間を舟下りをして一躍有名となつた。乍然上流時又一満島間約三十三軒も亦絶勝境である。天龍峽はその一部が發電工事のためダム湖底に没し壯快な川下りは不可能となつた。天龍峽谷中最も急流をなすのは遠州中部から瀬尻に至る約十八軒の間で、此の間大千瀬、水窪の二大支流を合せ水勢が益々加はり山岳相迫り川幅僅かに三十六米乃至九十米に過ぎない兩岸の翠壁は削立して白浪が巖を嘯んで奔流し水聲が簾々として耳を響き白沫粉々として衣を沾し怪石奇壁相踵いで應接に追なく豪宕悽愴の情趣其の比がなく殿下より海内無比とまで御絶讃を賜つた。

秋葉山奥の院、麥飯谷等

秋葉山に登山し参拜後雲名に下山して雲名から鹿島まで十八軒約二時間の川下りも登山を兼ねた奇興として大いに歓迎せられる。(定期船はない。備船は豫め遠州電気鐵道或は當案内所に御照會の事)

このコースは曾つて徳富蘇峯先生が讚嘆措かなかつた所で、鬱蒼とした兩岸の林相の美やこれと相對した江流の美を賞しつゝ、巉巖絶壁に打ちつかり千百轉しつゝある急流を縫つて下る爽快さは中流中部—瀬尻間に比して特趣がある。

名勝には氣田川の清流、千草の七ツ釜、横山の渡、蟹地獄、相津の曲流、船明辨天島、二俣古城跡、椎ヶ脇神淵、二俣橋等がある。

濱名湖巡り

濱松↓館山寺(バス)五〇分

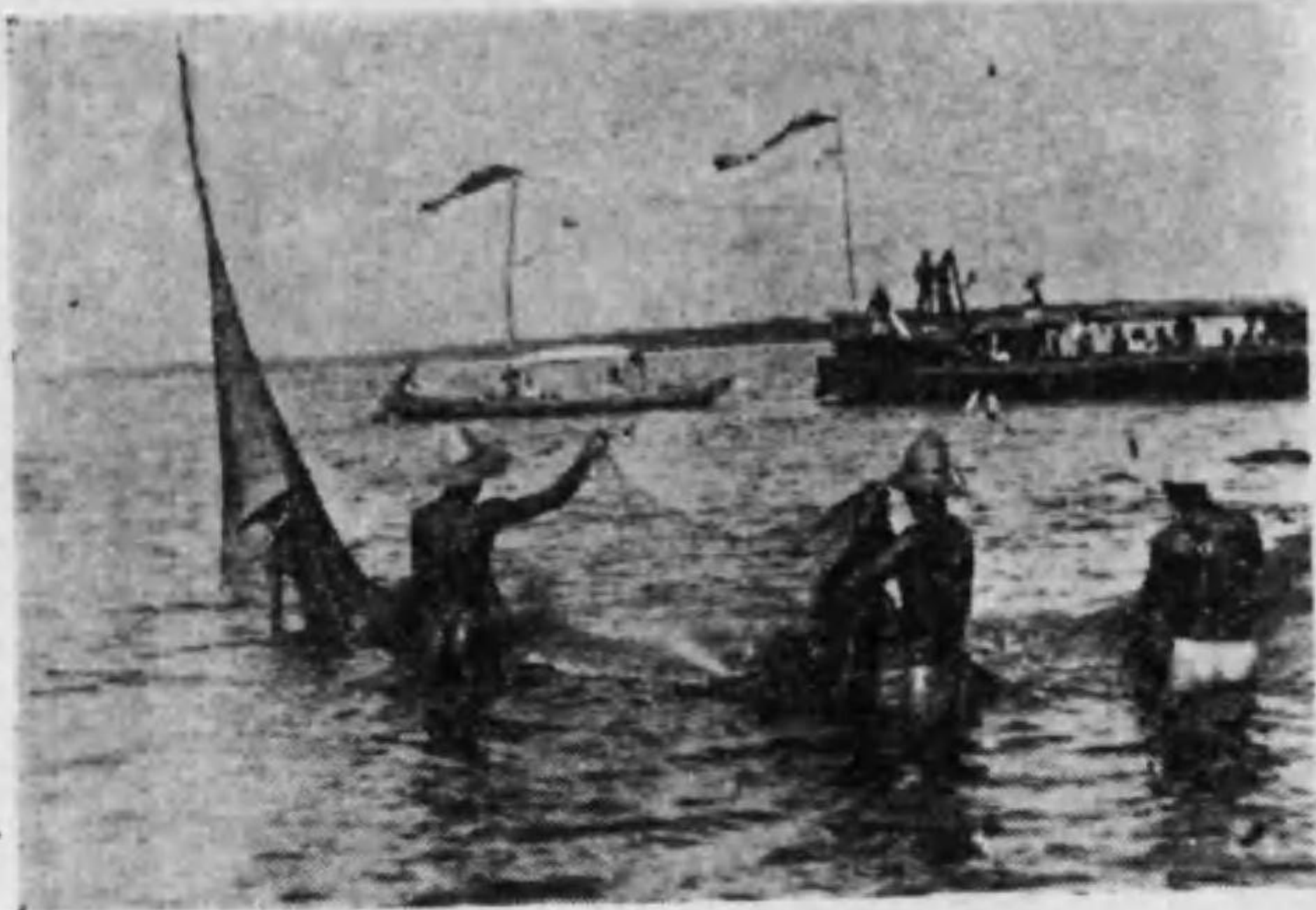
館山寺↓鷺津(巡航船)一時間一〇分

鷺津↓辨天島(省線)一一分

辨天島↓濱松(同)二八分

(費用) 一圓二〇錢

濱松驛前から乗合自動車又は貸切自動車で濱名湖岸の絶景地館山寺(別記館山寺の項参照)に出て巖めぐりをなし景勝を鑑賞して同所から定期巡航船鷺津行(一日七回就航)に乗り沿岸の佐久米、都筑、山崎等以下船深勝するもよく、その儘風光を眺望しつゝ進むと右手に狐島を望む、これが湖中の景勝礫島で岩島深淵に臨み琵琶湖の竹生島に擬せられてゐる。漁夫の魚貝類採取の状況を眺めつゝ鷺津港に上陸鷺津驛から汽車で辨天島驛に下車し水郷の風趣を味ひ、同所より濱松に歸る。これで濱名湖の風景は概ね觀賞する事が出来る。尙ほ鷺津港から定期巡航船三ヶ日行に(一日十回就航)乗れば湖中の絶勝瀬戸の奇巖猪鼻岩等の奇勝を



網 捕

觀賞する事が出来る、猪鼻湖の鏡の面を這つて北岸三ヶ日に着く。

三ヶ日町からは省線で西は豊橋方面へ、東は金指に出て濱松鐵道に乗換へて濱松へ出る又バスも東西に通つてゐる。(逆コースも同)夏季は辨天島を起點とする濱名湖遊覽船が仕立てられ、又和船、汽船等の貸切は四季を通じ遊客の希望に應ずることになつてゐる。

◆四季の行樂。氣候溫和、夏は涼風懐に入つて三伏の暑を忘れしめ、冬は和煦島中に充ちて料峭の寒を忘れしめ、魚貝豊かに取るに任せ、實に東海唯一の樂地である。

春……………沙干狩(蛤、淺蜆) 流網

夏……………海水浴、納涼、魚釣、貝拾ひ

秋……………觀月、魚釣、投網、蟹釣

冬……………海水温浴、鴨獵、避寒

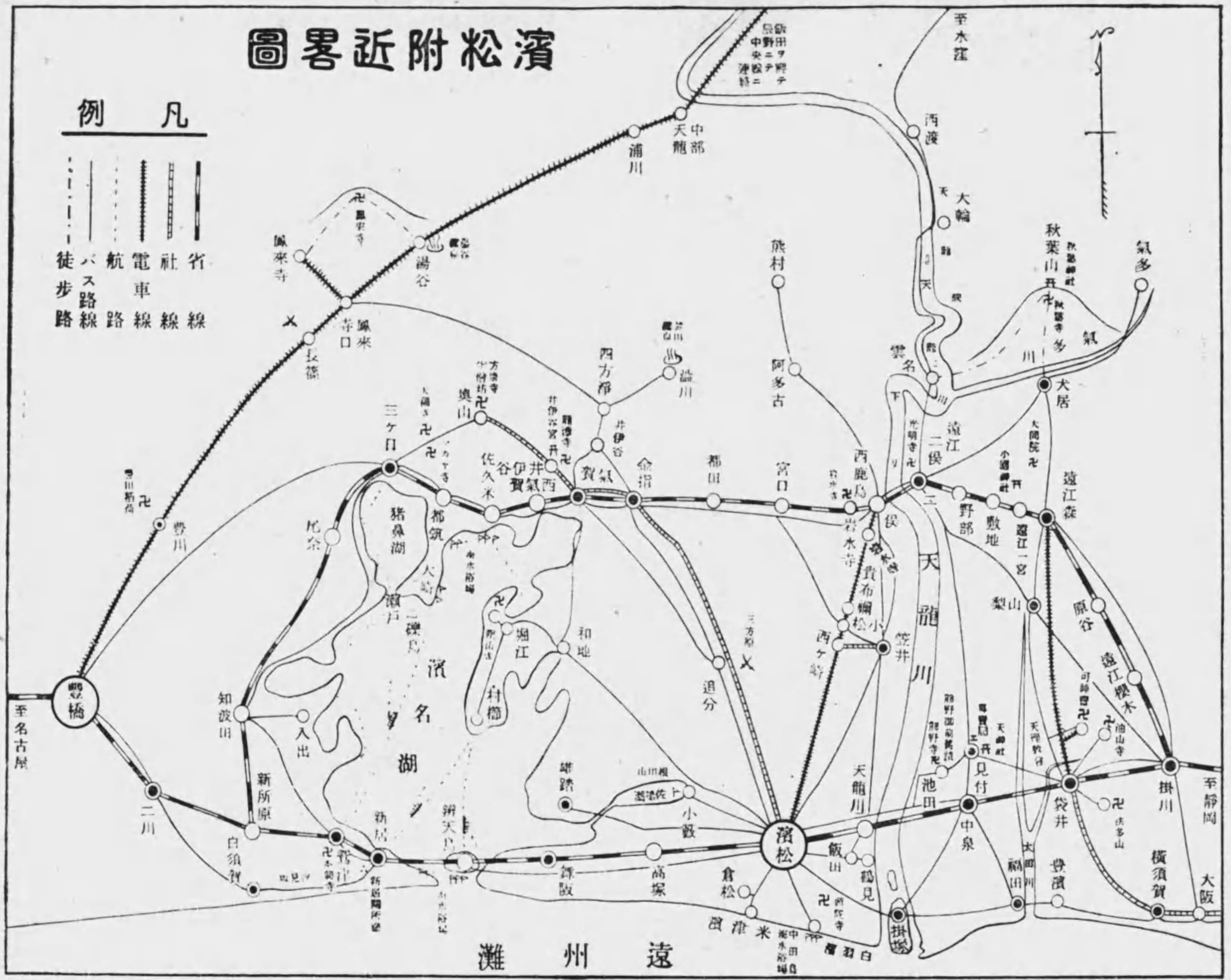
漁獲方法の珍しいものを掲げれば

團目網 濱名湖。夏の頃數十隻の船を一隊として圓陣をつくり、竹の簀を水上に浮べて魚を追ふ、魚は驚いて簀の上に飛上る、非常に壯觀で濱名湖の一名物である。

濱松附近略圖

凡例

- 省線
- 社線
- 電車線
- 航路
- 巴士路線
- 徒歩路



市内の官公署

名	濱松憲兵分隊	濱松陸軍病院	帝室林野管理局名古屋支局	濱松出張所	名古屋地方專賣局濱松出張所	名古屋地方專賣局濱松工場	靜岡地方裁判所濱松支部	濱松區裁判所	靜岡刑務所濱松支所	商工省名古屋輸出絹織物検査所	濱松稅務署	鐵道省濱松驛	名古屋鐵道局濱松工場	名古屋鐵道局濱松車掌區	名古屋鐵道局濱松機關區	名古屋鐵道局濱松檢車區	名古屋鐵道局濱松保線區		
所在地	龜山町	追分町	高野町	野口町	野口町	野口町	鴨江町	鴨江町	鴨江町	馬込町	松城町	旭町	東伊場町	旭町	旭町	旭町	北寺島町		
電話	一八	三六三	九七〇	一一三	一一一	一一六	一六	一六	六六五	三〇四六	一一二	二	九四〇	三、一九〇	三、〇四二	一、四六〇			
名	名古屋鐵道局濱松鐵道診療所	名古屋鐵道局濱松鐵道診療所	濱松西鐵道診療所	濱松郵便局	濱松放送局	濱松工場事務所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	東松工場事務所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	濱松簡易保險健康相談所	
所在地	砂山町	東伊場町	旭町	大蒲	大蒲	板屋町	田町	高野町	高野町	高野町	寺島町	寺島町	向宿町	向宿町	高野町	高野町	下池川町	田町	
電話	一〇	一〇	二、九四〇	二、九四〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一、九五〇	一、九五〇	一、九四〇	二、七一一	二、七一一	二、七一一	四、一〇五	四、一〇五	四、一〇五	三、〇四五	三、〇四五	四、二二一	四、二二六

靜岡縣濱松健康保險相談所	濱松警察署	濱松職業紹介所	濱松職業紹介所機械工補導所	日赤濱松病院	濱松市役所	濱松市商品陳列所	濱松市公會堂	濱松市消防團常設部	濱松市火葬場
新江町	鴨江町	榮町	馬込町	高林町	利馬町	傳馬町	利馬町	鴨江町	中澤町
三、六九二	一、七三五	三、〇九八	三、〇九八	三、九一四	三、八〇四	二、六一二	一、〇	二、五八〇	六、六七

市立濱松病院	濱松市馬込公益質屋	濱松市寺島公益質屋	濱松市立圖書館	濱松市立馬込圖書館	濱松市立富塚圖書館	濱松市立白鷗圖書館	濱松市立蒲田圖書館	濱松市立圖書館	濱松市立圖書館
鴨江町	龍禪寺町	馬込町	寺島町	紺屋町	鳥之郷	富塚	寺島	神立	傳馬町
二、四六	一、五三九	二、五五五	一、三四七	三、二四七	三、五〇七	四、二一六	四、二一七	四、二一七	三、四五九

市内の學校

濱松高等工業學校	縣立濱松師範學校	縣立濱松第一中學校	縣立濱松第二中學校	縣立濱松工業學校
廣澤町	名殘町	名殘町	西伊場町	寺島町
一、四五一	五八五	六	一、五四〇	一、一〇一

縣立濱松商業學校	縣立濱松第二商業學校	縣立濱松農蠶學校	財團法人靜岡縣興誠商業學校	縣立濱松工業青年學校
名殘町	名殘町	高林	高林	寺島町
八	八	一三	三、〇四三	一、一〇一

市立濱松高等女學校	私立靜岡縣西遠高等女學校	私立誠心高等女學校	市立濱松淑徳女學校	私立濱松高等家政女學校	私立濱松女子商業學校	私立濱松高等簿記學校	私立濱松盲學校	私立濱松聾啞學校	私立濱松速算學校	市立濱松實業女學校	市立濱松商工實踐青年學校	市立濱松元城高等小學校	市立濱松南尋常高等小學校	市立濱松西尋常小學校	市立濱松東尋常小學校
松城町	佐藤町	松城町	平田町	下池川町	向宿町	下池川町	鴨江町	鴨江町	傳馬町	元城町	高林	元城町	海老塚町	鴨江町	東田町
七	一、一八七	一、五五八	七八一	一、四四九	二、八〇〇	三、三七七	三、二五七	三、二五七	一、六二五	二、〇四四	三、六二一	九	六、七二	五、七一	九、六三

市立濱松縣居尋常小學校	市立濱松相生尋常小學校	市立濱松北尋常小學校	市立濱松龍禪寺尋常小學校	市立濱松追分尋常小學校	市立濱松佐藤尋常小學校	市立濱松高砂尋常小學校	市立濱松廣澤尋常小學校	市立濱松八幡尋常小學校	市立濱松馬尋常小學校	市立濱松馬尋常小學校	市立濱松富塚尋常小學校	市立濱松城北尋常小學校	市立濱松白鷗尋常小學校	市立濱松蒲田尋常小學校	濱松師範學校附屬小學校
東伊場町	相生町	山下町	龍禪寺町	追分町	佐藤町	龍禪寺町	廣澤町	新津	鳥之郷	一本杉	富塚	高林	寺島	神立	名殘町
二、八〇	一、一三五	一、三四六	九、七九	一、四七九	二、四二六	一、一三二	三、一〇二	三、一八七	三、二三〇	一、三三二	三、五〇七	三、六二一	四、二一六	四、二一七	三、六一



校學業工等高松濱



章徴の市松濱

町田嘉章作曲
新民謡 濱松音頭

秋葉譜で、天龍川降りや

松が見えますエー濱松が

遠州よいとこ居よいとこ

サ、キツセイ / / / ナー

西は濱名湖辨天島よ

東や天龍エー大鐵橋よ

仲を取持つ濱の松

サ、キツセイ / / / ナー

北は古戰場三ヶ原よ

南や波巻くエー遠州灣

共に眺めは天守閣

サ、キツセイ / / / ナー

遠州名物見せたい物は

凧揚祭にエーからツ風

濱松男の心意氣

サ、キツセイ / / / ナー

遠州濱松一度は御出

濱の松風エ、きざんざと

貴郎の御出をこがれ松

サ、キツセイ / / / ナー

409
299

昭和十五年九月一日印刷
昭和十五年九月五日發行

【非賣品】

静岡縣濱松市利町五八番地

編輯兼發行者 森野健市

静岡縣濱松市元城町一七三番地

印刷者 高田壬午郎

静岡縣濱松市元城町一七三番地

印刷所 株式會社開明堂

(濱松憲兵分隊檢閱濟)

濱松市案内所

濱松驛下車

物産について
見物と順路について
旅館の選擇について
乗りものについて
土産、買ひものについて
その他案内について

必ず御利用下さい

濱松驛表降車口 電話 4.103

終